



# 事業計画及び成長可能性に関する説明資料

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

2026年5月29日

東証GRT  
**336A**

- 01 会社概要
- 02 事業概要
- 03 当社の強み
- 04 高精度3次元データ市場の成長性
- 05 ビジネスモデル
- 06 成長戦略
- 07 財務情報
- 08 リスク情報

01

# 会社概要



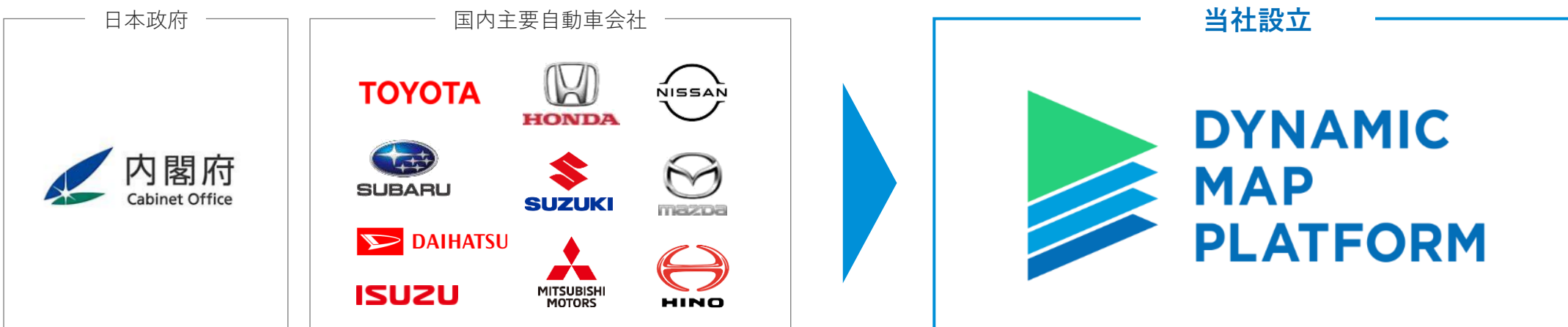
# 会社概要

会社名	ダイナミックマッププラットフォーム株式会社（証券コード: 336A）
設立	2016年6月13日
本社所在地	東京都渋谷区渋谷二丁目12番4号
拠点	日本、米国、ドイツ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、韓国
従業員数	235名（2026年5月時点） <sup>(1)</sup>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動運転・先進運転支援システム等に利用される高精度3次元地図データ（HDマップ）の生成・販売</li> <li>● HDマップ関連技術を用いた（自動運転以外の）多用途での高精度位置情報・ソリューションの提供</li> </ul>

## 設立経緯

日本政府主導により、国内主要自動車会社等が出資し、当社が設立

その後、General Motors Companyの投資先であった在米国HDマップ企業を完全買収し、グローバルに事業展開



注：(1) 従業員数には派遣社員を含む

## Global Deep-tech

ダイナミックマップという高精度な位置情報基盤をグローバルに構築するディープテック型のスタートアップ

## High Growth

日系大手自動車メーカー10社やGeneral Motors Company/ 日本国政府等の優良な顧客基盤を持ち高い売上成長性を実現可能

## High Competitiveness

競合比でも圧倒的な高精度3次元データを保有しており世界初の自動運転レベル2+・レベル3の実現に寄与してきた高い技術力を有している競争優位性

## High Profitability

ビジネスモデルについてはプロジェクト型ビジネスとライセンス型ビジネスの2本柱  
プロジェクト型ビジネスを通じてデータ基盤が整っており、以降は高い利益率が期待できる  
ライセンス型ビジネスによって高収益体質の実現を目指す

# Modeling the Earth

高精度3次元データプラットフォームとして様々な情報を集約

分析・制御・予測が可能な世界を実現し、社会課題解決に資するイノベーションを実現



# 数字でみるダイナミックマッププラットフォーム

グローバルにビジネス展開しフィジカルAI向けデータを提供、ライセンス型で事業拡大

**26**カ国

進出国数<sup>(1)</sup>

北米、欧州、日本  
韓国、中東

**74%**

海外売上高比率

2026年3月期

**57**億円

連結売上高

2026年3月期

**121%**

ライセンス型売上高  
成長率

2026年3月期

**180**万km

高精度3次元データ  
カバレッジ

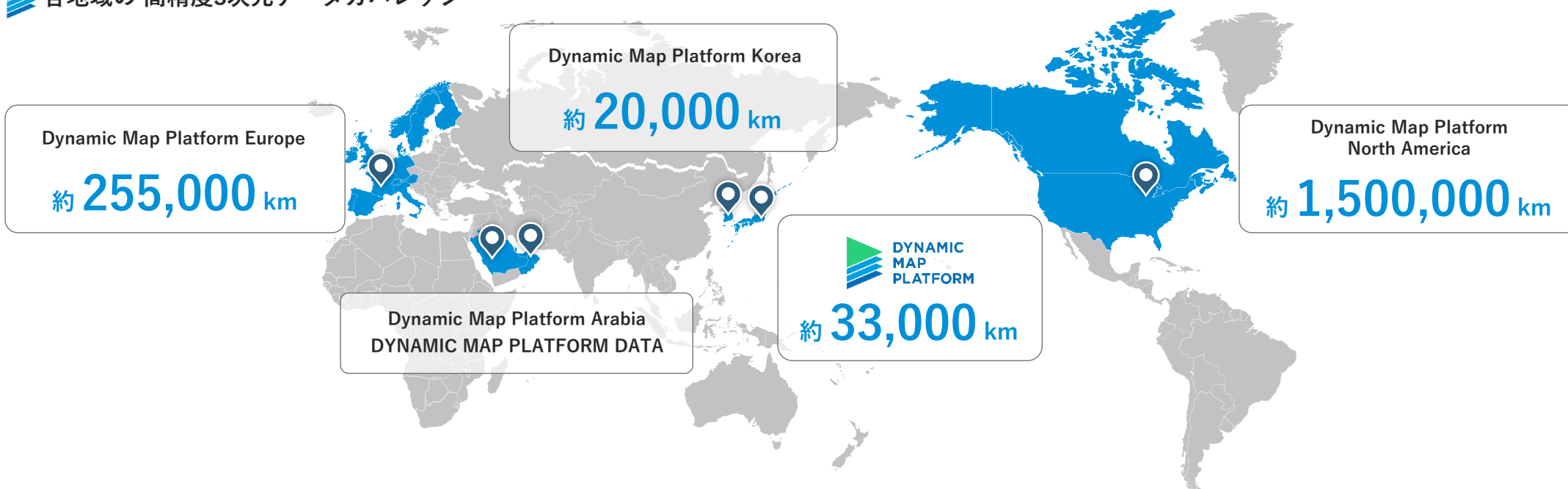
2026年時点

**約30%**

フィジカルAI市場  
年平均成長率<sup>(2)</sup>

今後10年間の予想

## 各地域の高精度3次元データカバレッジ<sup>(3)</sup>



02

# 事業概要



## 事業領域

自動車向け高精度3次元地図データ生成・提供（オートモーティブビジネス）に加え、高精度3次元データ関連技術を活用したソリューション提供（3Dデータビジネス）に事業領域を拡大

フィジカルAI時代の到来とともに、基盤データの価値が拡大。フィジカルAI時代の「データプラットフォーム」企業へ

### 事業領域の拡大

#### オートモーティブビジネス

##### 自動車向け高精度3次元地図データ生成・提供

自動運転・先進運転支援システムのための  
高精度3次元地図データの提供

技術  
転用

#### 3Dデータビジネス

##### 高精度3次元データ関連技術を活用したソリューション提供

Viewer、Guidance、位置情報サービス等  
様々な産業におけるソリューションの提供

フィジカルAI時代の「データプラットフォーム」企業へ

### 主な提供サービス

#### オートモーティブビジネス

##### ① 自動運転向けデータ

自動運転・先進運転支援システム  
ほか幅広い産業分野に

#### ② Viewer

高精度3次元点群データが  
閲覧・分析可能なプラットフォーム

#### 3Dデータビジネス

##### ③ Guidance

高精度3次元データ生成技術を応用、  
センチメートル級の高精度ガイダンス  
を提供

##### ④ 位置情報サービス

「空間ID」を使って動的・静的情報  
を統合、様々なアプリケーションへ  
情報提供

# オートモーティブビジネス - 自動運転向けデータ

高精度3次元地図データは高度な安全性を担保した自動運転/先進運転支援システムに肝要

AIによる学習・推論も含め、開発向けAI用途での法人ライセンス需要が拡大 (Data for AI)

Data for AI

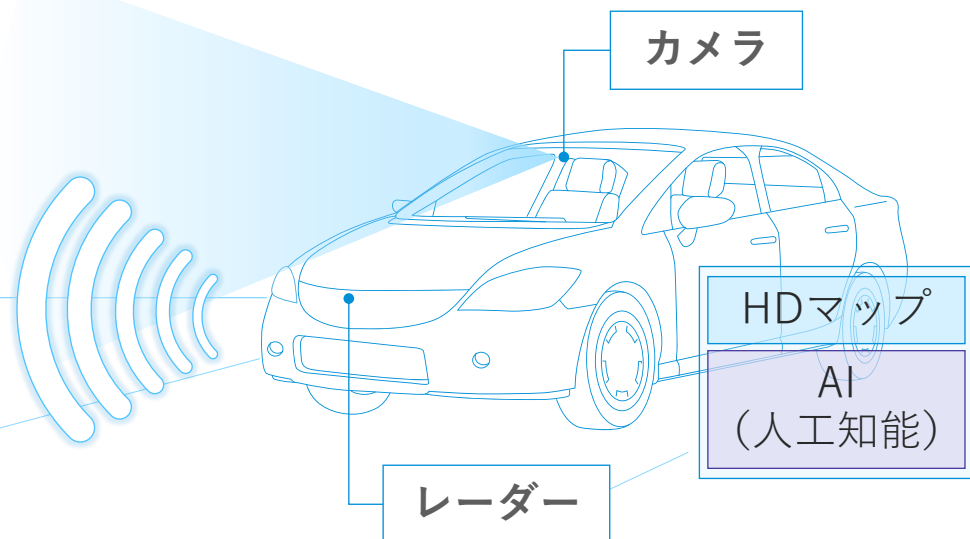
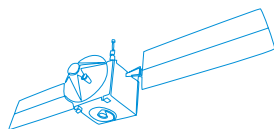
プロダクト紹介サイト



自動車向け高精度3次元地図データ (HDマップ) とは

自動運転・先進運転支援システムのための  
高精度3次元地図データの提供

自己位置推定において重要な役割を果たす



自動車向け高精度3次元地図データの役割

自動運転の構成要素



# 3Dデータビジネス - Viewer

高精度3次元データをViewer機能によって見える化

これまでDX化が実現してこなかった様々な産業において事業拡大

## Viewerとは

正確な3次元データをどこからでもWebブラウザで閲覧可能  
現場へ行かずともcm級の計測、角度計算を実現

## ユースケースと潜在的ニーズ<sup>(1)</sup>

### 1 事故調査

道路状況が再現されたデータを可視化・計測

### 2 インフラ管理

高さを含む正確な寸法計測や形状確認が可能

### 3 自律移動モビリティ

ルート設計等の運行コストの最適化に貢献可能

### 4 MaaSシミュレーション

交通シミュレーション構築における時間・コストの最適化を実現可能

## Viewerプロダクト事例：3Dmapspocket

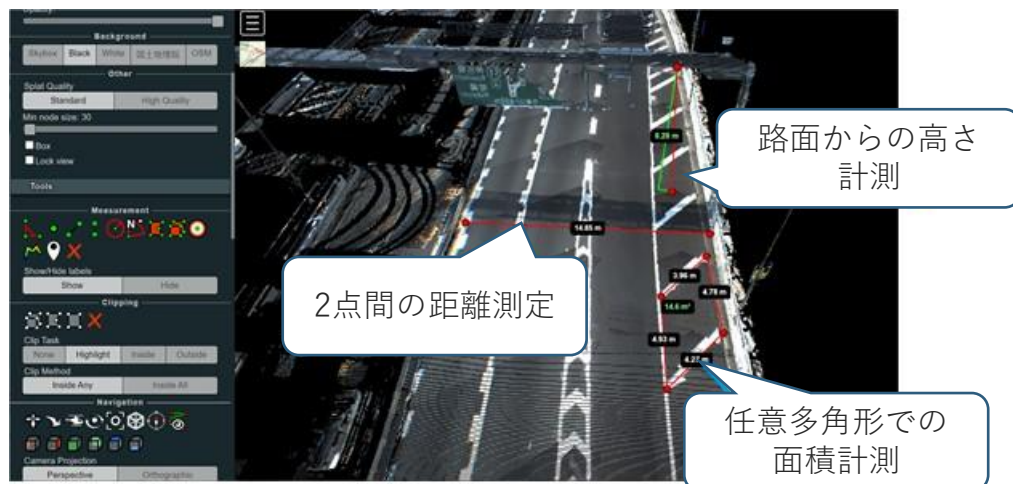
### 課題

事故現場確認の困難さ、調査作業の安全性

### 導入効果

- デジタル空間内で、事故現場の道路構造や位置情報の計測・把握。現地での作業を最小限に圧縮し、現場作業員を3分の2に
- 大手損害保険会社、事故調査会社等で、導入実績あり

プロダクト紹介サイト



注：(1)「自律移動モビリティ」、「MaaSシミュレーション」については事業開発段階

# 3Dデータビジネス - Guidance

自動運転/先進運転支援システム向け高精度3次元データの生成技術を活用しガイダンス機能を提供  
デジタル化の遅れている業界向けに3Dデータを用いたDXを推進

プロダクト紹介サイト



## Guidanceとは

高精度3次元データ+タブレット+測位端末によって  
高精度Guidanceを実現

## ユースケースと潜在的ニーズ<sup>(1)</sup>

### 1 除雪

雪に覆われた障害物を3Dで可視化し、除雪作業を支援

### 2 空港・港湾

航空機の離発着に応じた輸送車両への運航ガイダンス

### 3 脱炭素

勾配情報を活かしてトラックドライバーへ低燃費をガイダンス

### 4 エンターテイメント

モビリティ内におけるHDマップによる高精度なMR（複合現実）

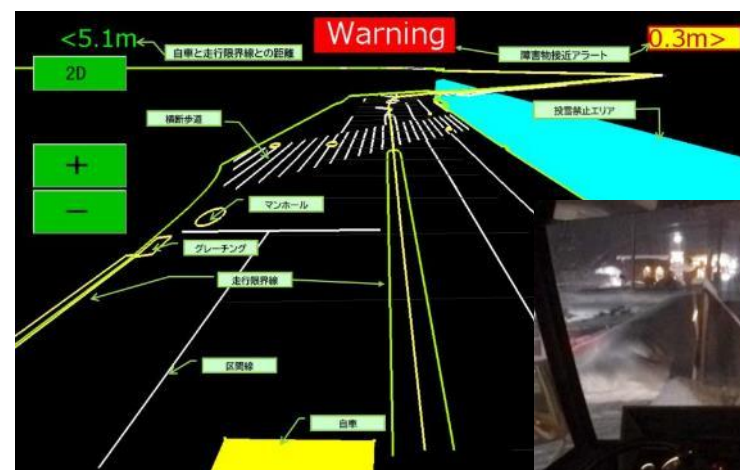
## Guidanceプロダクト事例：除雪支援システム

### 課題

担い手不足による労働力不足、作業の安全性

### 導入効果

- 作業日数短縮の伴うコスト削減
- 道路構造物可視化による作業安全性の向上
- 北海道・東北エリアを中心に、複数の地方自治体から受注



注：(1)「脱炭素」、「エンターテイメント」については事業開発段階

## 3Dデータビジネス – 位置情報サービス

空間IDの概念を用いた3次元の位置情報をキーに、動的・静的情報を統合して様々なアプリケーションへ情報提供  
本サービスによってドローンやAGV（自動搬送ロボット）等の高度な運用が可能に

プロダクト紹介サイト



### 空間IDとは

3次元空間をボックス状に切り分け、位置情報を付与することで**空間上の位置を特定できる規格**

地球上のあらゆる空間を対象に、現実空間をデジタル空間上で再現する**デジタルツインの新たな手法**

### ユースケースと潜在的ニーズ<sup>(1)</sup>

#### 1 ドローンのルート設計・飛行制御

ドローンに必要な空間データを空間IDをキーに一括で取得

#### 2 洪水など災害情報の可視化

災害発生時の被害状況の3次元可視化、分析が可能

#### 3 モビリティの走行及び管理

自律移動モビリティに必要な空間情報を空間ID化  
各モビリティが同一の規格の中で情報をやり取り

#### 4 地下インフラマネジメント

機密性を守りながら各事業者が地下の状況を把握可能

### 位置情報サービスプロダクト事例：VIPS<sup>(2)</sup>

#### 課題

自動走行車両同士の情報連携、安全性の確保

#### 概要

- 高精度3次元データに各種情報を連携させるダイナミックマップ情報を配信するデータ連携システム
- 狭域エリアでの業務車両の自動化・効率化において重要な要素



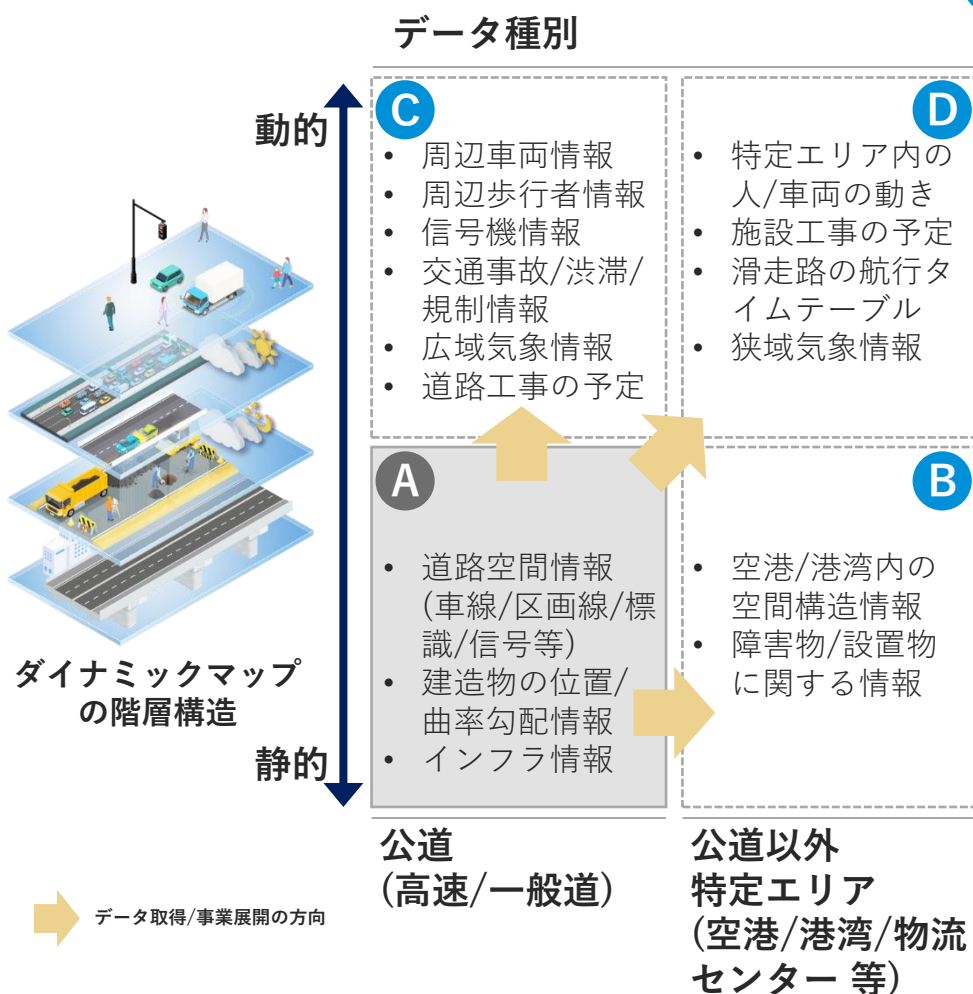
注：(1) 実証、事業開発段階のものを含む、(2) VIPS (Various Information Port System)

# 各種データ連携を通じたダイナミックマッププラットフォーム構築

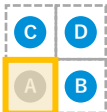
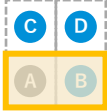
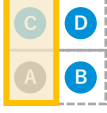
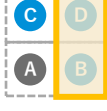

当社が提供する高精度3次元データはダイナミックマップにおける高精度な位置情報基盤となる

公道における静的なデータ取得からスタートし様々な動的データの収集・システム化を進めるとともに、公道以外特定エリアへの展開及び動的データを統合するアプリケーションの開発・導入を進め、ダイナミックマップの構築に取り組む

## ダイナミックマップを構成するデータ



## 各種データの取得・連携により実現されるユースケース

種類	用途の例
 <b>公道HDマップ型 (基本型)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公道向け自動運転・先進運転支援システム量産車両への搭載</li> </ul>
 <b>広域HDマップ型</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルツイン構築に関する調査</li> <li>高精度3次元データの事故調査利用</li> <li>インフラ管理ツールの高度化</li> </ul>
 <b>公道ダイナミックマップ型</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送車向け低炭素運転ガイダンス (エコドライビングシステム)</li> <li>公道の除雪作業向けガイダンス</li> </ul>
 <b>特定エリアダイナミックマップ型</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港・港湾施設における自律移動モビリティ向けアプリケーション開発</li> <li>物流施設向け車両管理システム導入</li> </ul>
 <b>全方位拡大型</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルライフライン構築に向けた自動運転サービス支援道的设计</li> <li>物流自動化に向けたレベル4自動運転トラック開発</li> <li>車両開発・都市開発等シミュレータ</li> </ul>

## 測量ネットワーク構築 -測量能力拡大の必要性-

空港/港湾/物流センター等の特定エリアにおける事業拡大に向けて、  
衛星データ・航空写真・ドローン測量などデータ収集方法の多様化と機動的な測量能力を強化

### 3次元測量の技術動向

- センサ性能の向上や機材の小型化により、データの正確性と迅速性が向上
- 幅広い空間での精密なデータ取得が可能となり、ICT施工やデジタルツイン構築等利用が広がっている

### 測量システム

#### MMS



- 車両にLidarとカメラ等を搭載し、移動しながら連続測量
- 走行ルートの道路周辺の点群を高精度に取得

#### 航空測量



- 航空機にカメラやLiDARを搭載し高高度から広域データを取得

#### ドローン



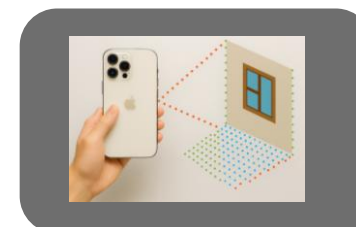
- レーザまたはカメラを搭載し、短時間で広範囲のデータ取得が可能
- 樹木の下の地形も取得可能で、森林や災害地での活用が進む

#### 地上型レーザ／ハンディレーザースキャナ



- 地上でレーザーを照射し測定
- 建物内部や地下空間にも対応

#### スマホ Lidar・画像



- スマホに搭載されたカメラ、LiDARを活用し、手軽に3D測量が可能

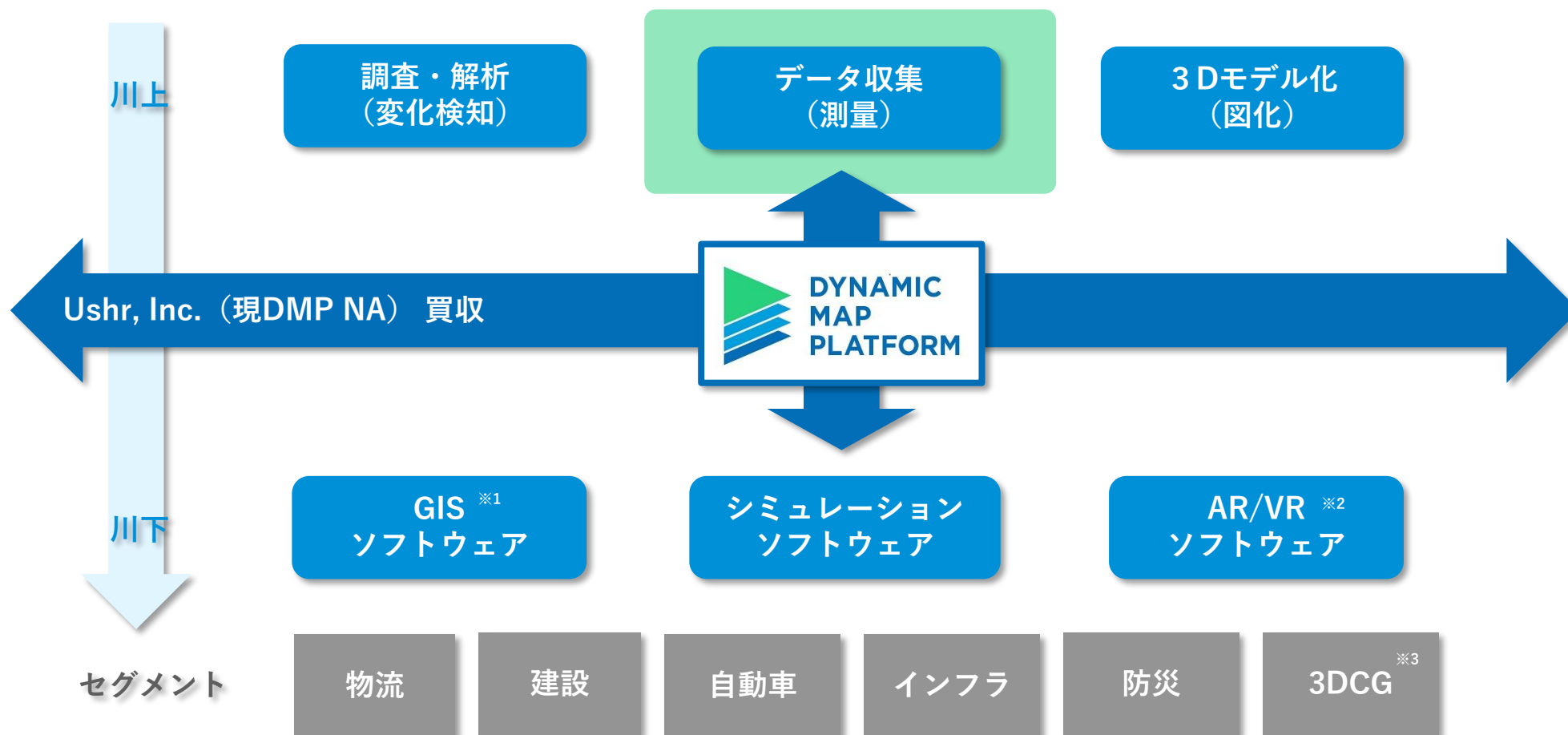
### データ処理

- **AIとの融合**：画像や点群データの自動分類・認識、リアルタイム解析が可能に
- **リアルタイム処理**：5G/6G通信を活用し、現場からクラウドへ即時送信・共有
- **非GPS環境対応**：GPSが届かない環境での自己位置推定と地図生成

## M&Aによる事業領域拡大

2019年に「水平統合型」M&AとしてUshr, Inc. (現DMP NA) を買収し、グローバル市場No.1のポジションを獲得

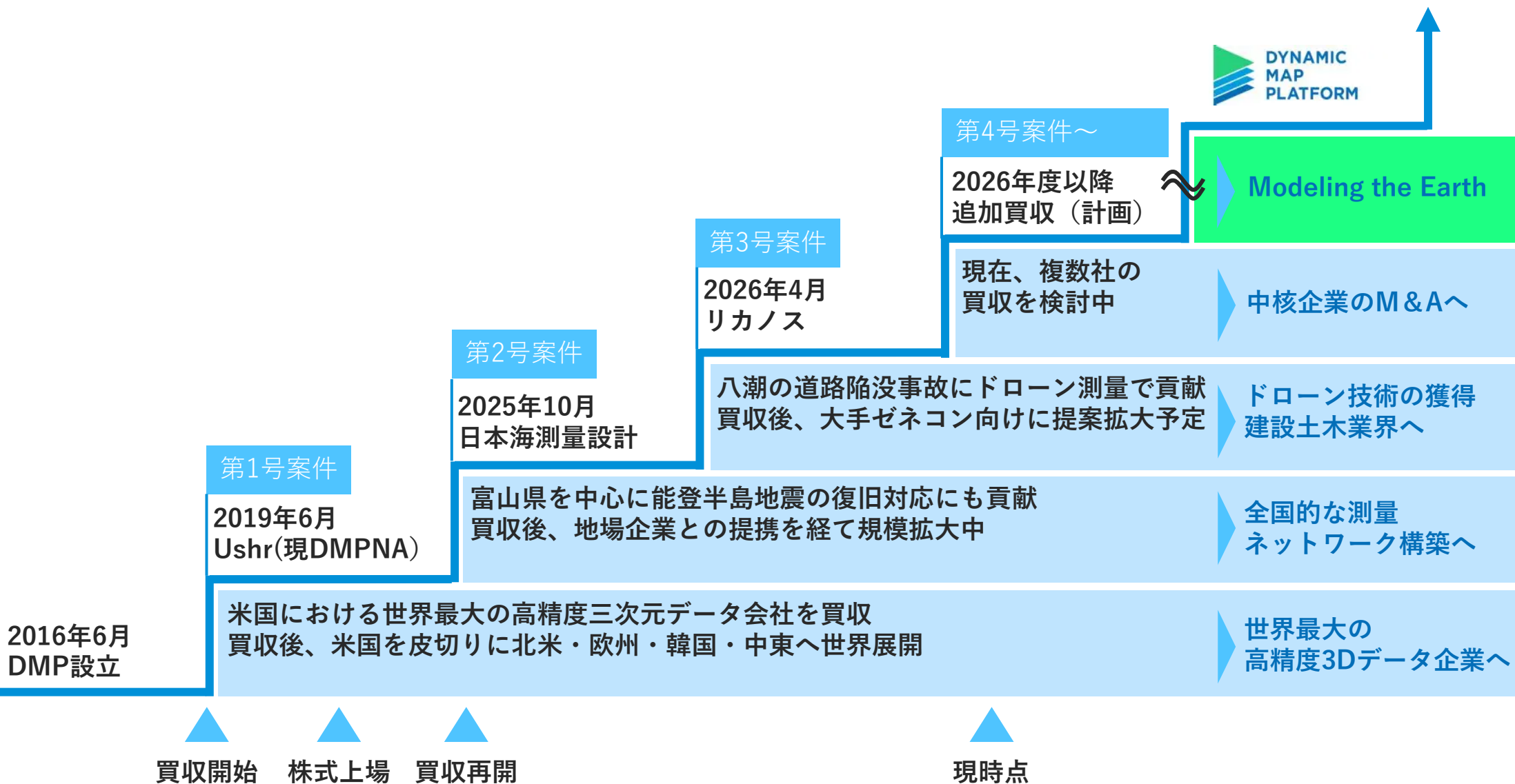
2025年の上場を経て「垂直統合型」M&Aとして川上・川下領域を対象にした買収を開始。現在は、データ収集機能を担う測量会社の連続買収を実行中



※1: Geographic Information System ソフトウェア (地理空間データを扱う為のシステム) 2: Augmented Realty (現実世界にデジタル情報を重ねて表示する技術) / Virtual Realty (完全な仮想空間を構築し、ユーザーを没入させる技術) ソフトウェア  
3: 3次元コンピュータグラフィックス (コンピュータを使って立体的な映像やモデルを作成する技術)

## 連続的M&Aを通じたグループ拡大

2019年のUshr, Inc.買収からM&Aをスタートさせ2025年の上場を経て2025年度から再開  
既に計3件の買収を完了し、今後も連続的M&Aによるグループ拡大を計画



# フィジカルAIの「データプラットフォーム」

多様な産業においてフィジカルAI時代における「データプラットフォーム」を提供  
自動運転からモビリティ・インフラ・広告・エンターテイメントへ広がる



注：(1) 上記は当社グループが2026年5月の時点でまだ進出していない分野を含む、ターゲット市場のイメージ (2) レベル0：運転自動化なし、レベル1：運転支援（ハンズオン/シェアードコントロール）、レベル2：特定条件下での自動運転機能（ハンズオフ）、レベル2+：高速道路での条件付自動運転、レベル3：条件付自動運転（アイズオフ）、レベル4：特定条件下における完全自動運転（マインドオフ）、レベル5：完全自動運転（ドライバーオフ）

03

## 当社の強み



# グローバル市場での事業成長を牽引する経営陣

多様なバックグラウンド・専門性を有する日米の経営陣が牽引し、グローバルに事業展開



**吉村 修一**  
代表取締役社長  
CEO

- マネジメント
- ファイナンス
- 事業運営



**志賀 俊之**  
社外取締役

- マネジメント
- 自動車業界30年超



**鈴木 秀和**  
社外取締役

- マネジメント
- ファイナンス



**Rajeev Joshi**  
DMP North America  
President

- 技術
- エンジニアリング
- 自動車業界 30年超



**Duane Garwood**  
DMP North America  
Executive Vice President

- 技術
- エンジニアリング
- 自動車業界 30年超



**雨谷 広道**  
上席執行役員  
ビジネス統括

- マネジメント
- 事業開発



**Trip Bonds**  
DMP North America  
Vice President, Sales and  
Marketing

- セールスオペレーション
- マーケティング
- 地図業界に精通



**Dr. David K. Johnson**  
DMP North America  
Chief Scientist

- 技術
- エンジニアリング20年超



**Dayneen Webb**  
DMP North America  
Director of HR

- 人事

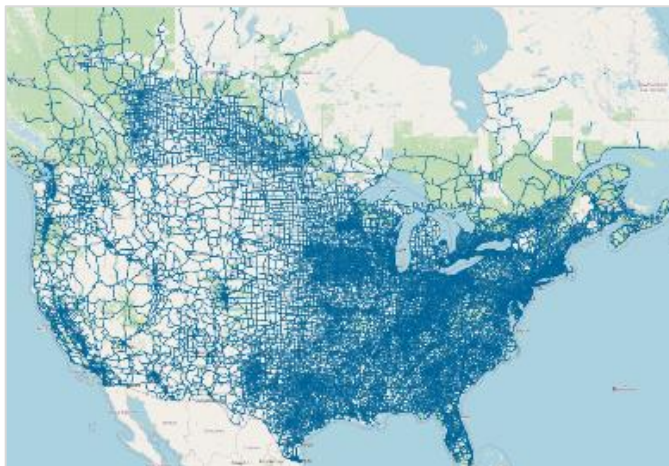
# 世界最大級の高精度3次元データを構築

グローバルで圧倒的なデータベースを構築 (カバレッジ180万km)

世界各国における産業のデジタル化、社会課題解決に貢献する大きなポテンシャルを有する

北米における当社データカバレッジ

**1,500,000** km



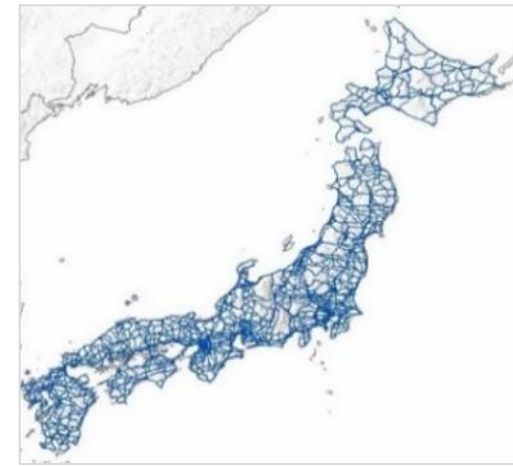
欧州における当社データカバレッジ

**255,000** km



日本における当社のデータカバレッジ

高速道路 **33,000** km



その他地域における当社のデータカバレッジ

韓国

高速道路  
**20,000** km

中東

高速道路  
26年度中の整備完了見込み

先進国地域の整備は概ね完了

# 高精度3次元データ生成技術

日米で初のハンズオフ実現以来蓄積してきた経験に裏打ちされ、社員の7割を占めるエンジニアが有する高いエンジニアリング力/ノウハウ

## 高精度3次元データ作成過程



### 1. 計測

MMS<sup>(1)</sup>にて  
高精度3次元点群データ<sup>(2)</sup>を取得



### 2. 図化

高精度3次元点群データから  
地物<sup>(3)</sup>を抽出して高精度3次元地図データを生成

## 高精度3次元データを生成する技術力

業界最高水準の精度で3次元データを生成する  
「測位・計測」技術

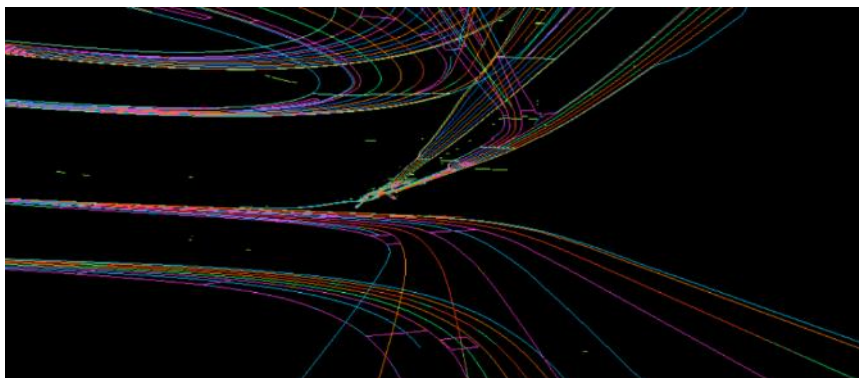
自動運転/先進運転支援システム開発や測量士等の多様な経験や資格を有する技術陣

グローバルベースで**全社員の約7割が技術者**

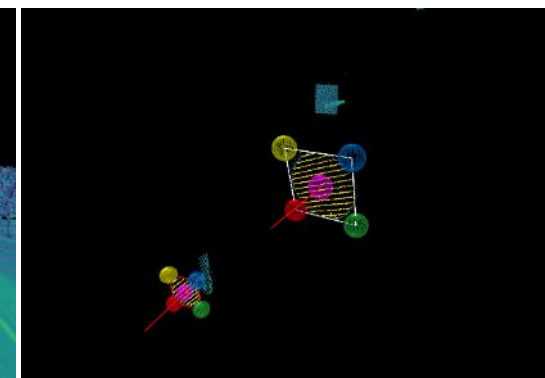
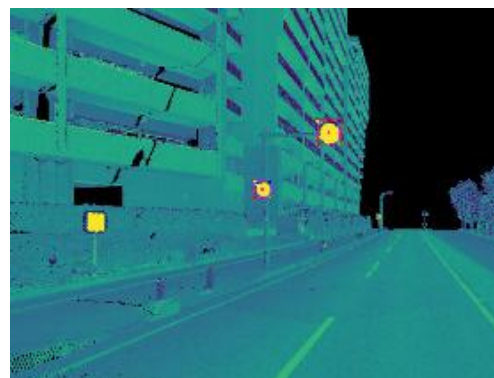
**機械学習を活用**した各種ツールの自主開発による  
**コスト低減、継続的な品質向上**

大手自動車メーカーをはじめとする**各顧客要求に応じた仕様を策定するコンサルティング力**

## 高精度3次元地図（首都高速道路 大橋JCT）



## 標識自動抽出ツール



注：(1) GPS、カメラ、レーザスキャナなどを搭載したものであり、高精度での計測が可能な特徴を有しております (2) 3次元測量によって得られた3次元座標を持った点データの集合を指します (3) 道路、境界線等、地図上に表示されるものを指しております

## 事業実績／今後のパイプラインを生み出す優良な顧客基盤

オートモーティブビジネス：グローバル大手自動車メーカーの大半が顧客／採用車種実績は38車種

3Dデータビジネス：DX推進する行政のプロジェクト実績多数。ライセンス事業確立に向け民間企業の顧客基盤を形成中

### オートモーティブビジネスにおける顧客

- トヨタ自動車
- 本田技研工業
- 日産自動車
- General Motors Company
- SUBARU
- 大手半導体メーカー

他多数

### 自動車メーカー・政府との強固な関係性

－日本政府主導により日系大手自動車メーカー等が出資して設立された会社経緯から、日系大手自動車メーカー及び日本政府との強固な関係性を構築

－当社グループ企業であるDynamic Map Platform North America, Inc.は、当社買収前においてGM Venturesを通じて開発資金が提供され、技術者同士が協力するなど、General Motors Companyとの間で緊密なパートナーシップを構築

### 3Dデータビジネスにおける顧客

- 経済産業省
- 国土交通省
- 国立研究開発法人  
新エネルギー・産業技術総合開発機構
- デジタル庁
- 東京都
- 静岡県

他多数



デジタルライフライン：自動運転サービス支援道実証実験

当社HDマップ 搭載車種数		38	車種 <sup>(1)</sup>
搭載車種例			
TOYOTA	レクサス LS / MIRAI		
HONDA	レジェンド ハイブリッドEX / Acura ZDX / アコード		
NISSAN	スカイライン / アリア / セレナ / Rogue / Armada / Infiniti QX80 / リーフ		
SUBARU	Outback		
GM	Cadillac	CT6 AWD / Escalade / CT5 / CT4 / XT6 / Lyriq / Optiq	
	GMC	HUMMER EV / Yukon Denali / Sierra Crew / Acadia	
	Chevrolet	Bolt EUV / Tahoe / Suburban / Silverado Crew Cab / Blazer EV / Traverse / Equinox EV	
	Buick	Enclave	

民間

- NEXCO西日本
- NEXCO東日本
- 大手損害保険会社
- 三井不動産
- ソフトバンク

他多数



Viewerプロダクト 3Dmaps pocket

注：(1) 搭載車種数は2026年3月時点

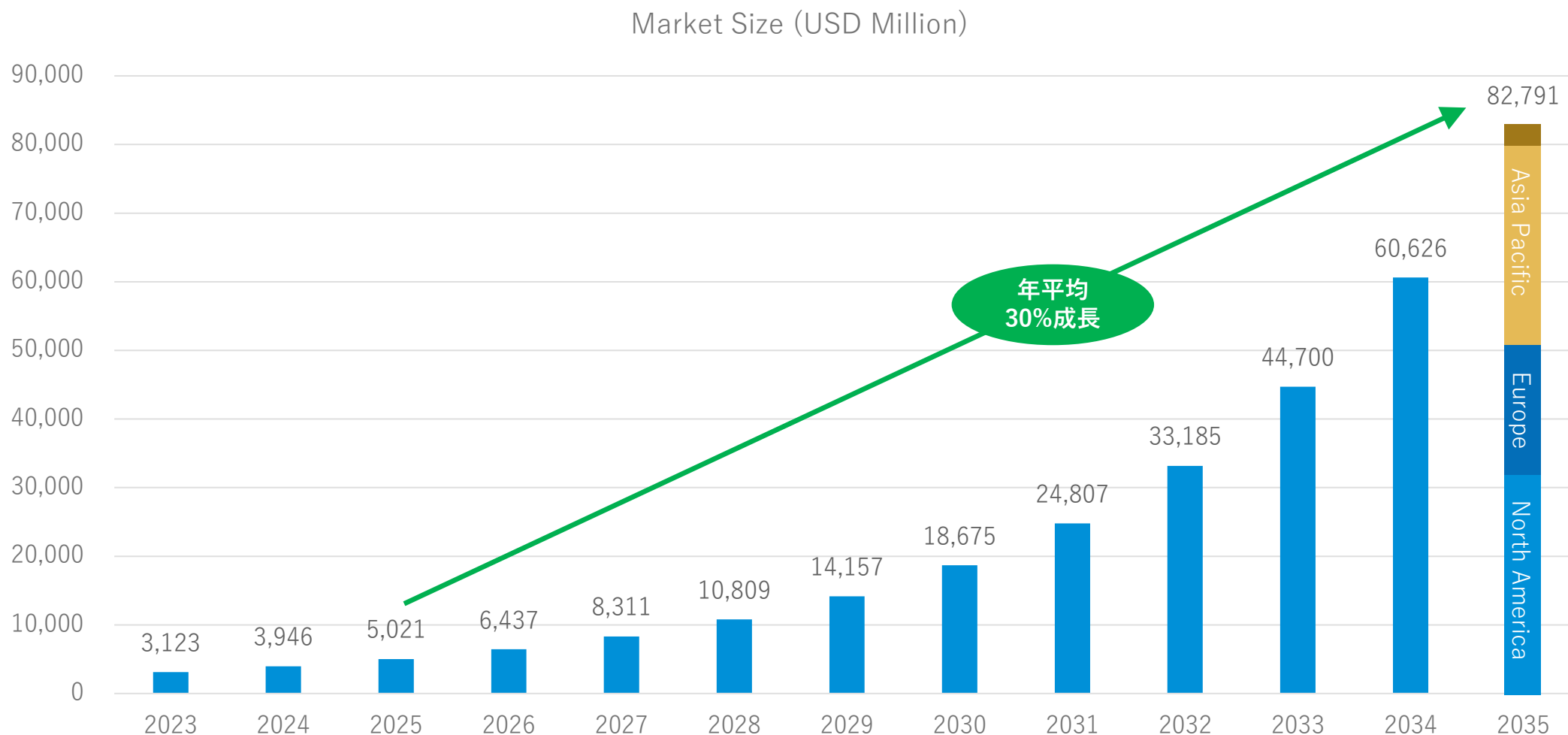
04

## 高精度3次元データ市場の成長性



## 高成長するフィジカルAI市場へデータ提供

フィジカルAI市場は、ロボティクス、自動運転、スマートインフラ等への適用拡大を背景に、今後10年以上にわたり高い成長が見込まれる。この市場において当社は、AIを学習・検証するためのデータを既に提供しており、市場拡大とともに中長期的な事業機会の拡大が期待される



## フィジカルAIとは

フィジカルAIは自動運転やロボットに代表される物理空間に作用するAIであり、デジタル空間に閉じる従来のAIとは大きく異なる。創業以来、物理空間のデータを生成・蓄積してきた当社は、既に優位なポジションにある（Data for AI）

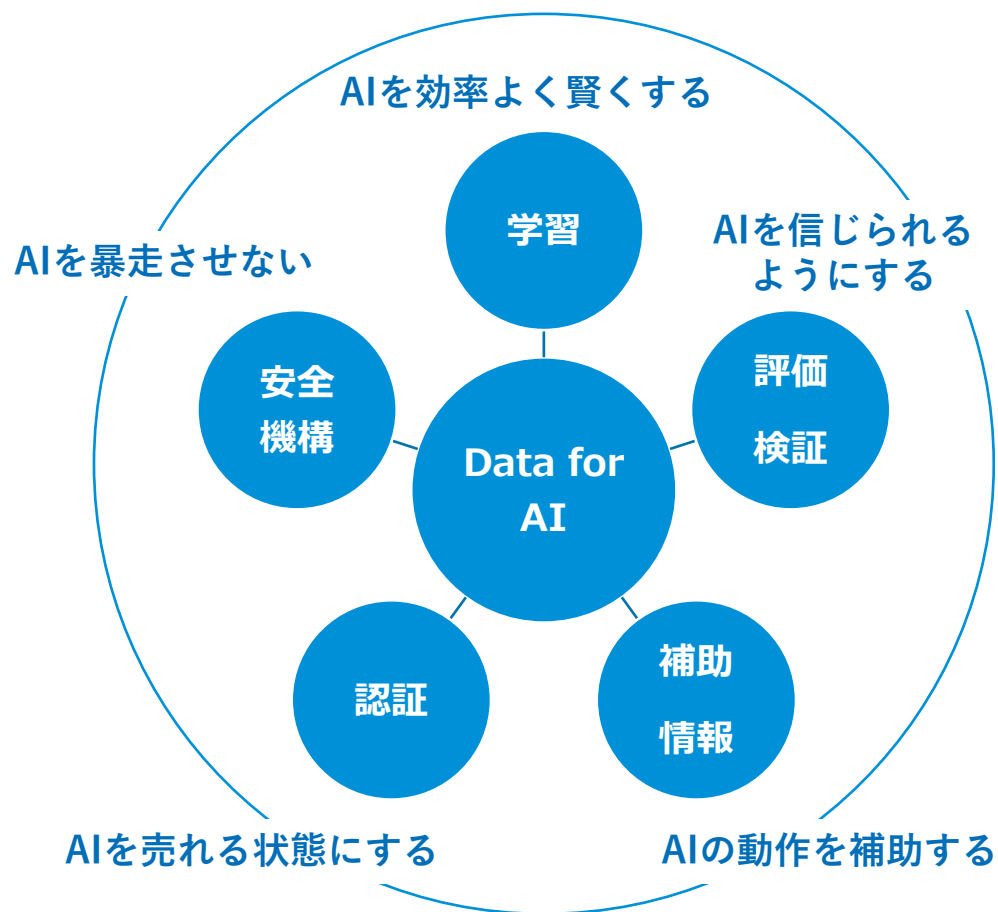
### 従来AIとフィジカルAIの違い

	従来AI	フィジカルAI / Embodied AI
代表例	LLM、Agent AI	自動運転、ロボット、産機建機自動化など
主な対象世界	デジタル空間	物理空間
入力	自然言語、画像、音声	左記＋センサー情報 （視覚、力覚、位置、速度、環境）
出力	コンテンツ生成 （文章、画像、意思決定支援など）	物理的行動 （移動、把持、操作、制御）
学習データ	大規模な既存データ （Web・ログ）	実世界データ （取得コスト高・再現性低）
実行ループ	入力 ⇒ 推論 ⇒ 出力 （オープンループ）	知覚 ⇒ 判断 ⇒ 行動 ⇒ 知覚 （クローズドループ）
時間制約	緩い（遅延許容）	リアルタイム性が必要
安全性/失敗時のリスク	誤情報・品質問題	人身・物損リスク・法的責任

## 「Data for AI」でフィジカルAIの社会実装に貢献する

フィジカルAIの社会実装にはデータの側面から大きく5つの課題が存在し、それが同時に空間データの用途類型に  
当社は、5類型のAIネイティブデータとしてData for AIビジネスを展開

### フィジカルAIのための空間データ5類型（Data for AI）



	AIネイティブデータ例
学習	モデル学習用にキュレーション・最適化されたデータ
評価・検証	AIモデルの性能評価環境用データ (高度なシミュレーション向けデータ)
補助情報	エッジ側のAIモデルの判断・推論を支えるデータ
認証	社会実装に向けた規格や法規適合の認証を支えるデータ
安全機構	AIの異常な判断を抑制するガードレール、AI制御のODDを規定するデータ

## マーケットサイズー急拡大する自動運転/先進運転支援システム市場規模／巨大な3Dデータ市場規模

オートモーティブビジネス：レベル2+以上の市場は年平均成長率37%で成長し2030年には全車両の約3割へ搭載される見通し  
3Dデータビジネス：当社データでアドレス可能な市場規模は既に1.6兆円存在すると推定

### 自動運転/先進運転支援システム搭載車両台数予測

レベル2+以上の自動運転/先進運転支援システム搭載車の年間販売台数予測（百万台）

#### TAM予想年平均成長率

**37%** (2022A - 2030E)

TAM（グローバル）

**2.1**百万台

SAM

**1.7**百万台

2022A

TAM（グローバル）

**26.7**百万台

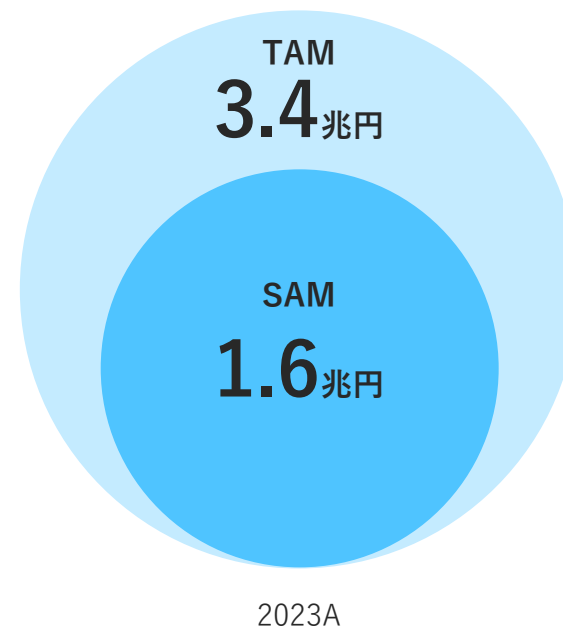
（全車両の28%）

SAM

**11.1**百万台

2030E

### デジタルマップ市場規模予測



#### Total Available Market（獲得可能な最大市場規模）：

全世界におけるレベル2+以上自動運転/先進運転支援システムの搭載車の年間販売台数

#### Serviceable Addressable Market（獲得可能市場）：

当社グループがデータカバレッジを有する日本・北米・欧州・韓国におけるレベル2+以上自動運転/先進運転支援システムの搭載車の年間販売台数

#### Total Available Market（獲得可能な最大市場規模）：

自動車分野を除くグローバル市場

#### Serviceable Addressable Market（獲得可能市場）：

当社グループのデータカバレッジ地域と重なる北米・欧州・アジアパシフィックにおいて、当社が事業を展開しているインフラ/輸送/政府・防衛分野におけるデジタルマップ市場の金額規模

# 自動運転レベル

国内外で共通認識となっている自動運転のレベルは、米国の自動車技術会（SAE：Society of Automotive Engineers）によって定義され、以下レベル0からレベル5の6段階に区分される

自動運転レベル	運転操作の主体 (※1)	概要・定義	具体的内容・状況等
HDマップが有効 自動運転	レベル5	<b>完全自動運転</b> システムが全ての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への応答を無制限に（すなわち、限定領域内ではない）実行	場所、天候、速度等の状況に関わらず、いつでもどこでも運転者が介入することなく自律的に運転できる。交通信号や標識、歩行者、他の車両など、周囲の状況を正確に認識し、適切に対応する。 
	レベル4	<b>特定条件（※2）下における完全自動運転</b> システムが全ての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への応答を限定領域において実行	高速道路や特定の都市部などの「限定領域」において、運転者が介入することなく自律的に運転できる。「限定領域」外では、自動運転が出来ない。 
	レベル3	<b>条件付き（※3）自動運転</b> システムが全ての動的運転タスクを限定領域において実行 作動継続が困難な場合は、システムの介入要求等に運転者が適切に応答	高速道路や特定の都市部などの「限定領域」において、システムの作動継続が困難な場合はシステムの介入要求等に運転者が適切に応答する条件付きで、自律的に運転できる。システムの介入要求がある際には、運転者が適切に応答する必要があり、運転者が必要。 
先進運転支援システム	レベル2+	<b>特定条件下での自動運転機能（高機能化）</b> レベル2に車線変更や合流、分岐、遅いクルマの追い越しなど高度な運転支援機能を追加したもの	車線変更や合流、分岐、遅いクルマの追い越しなどの複雑な運転操作をシステムが自動で行う。一定の条件下でハンズフリー走行が可能。運転者は常に運転状況を監視し、必要に応じて介入する準備が求められる。 
	レベル2	<b>特定条件下での自動運転機能（レベル1の組み合わせ）</b> システムが縦方向及び横方向両方の車両運動制御のサブタスクを限定領域において実行	レベル1の機能の組み合わせによる運転支援が可能。具体的には、車線を維持しながら、前方車両との距離を保ち追従することが出来る。 
	レベル1	<b>運転支援</b> システムが縦方向又は横方向のいずれかの車両運動制御のサブタスクを限定領域において実行	システムが前後・左右のいずれかの車両制御を実施する。 例：自動ブレーキ、自動前車追従機能、自動車線維持機能
	レベル0	運転者が全ての動的運転タスクを実行	

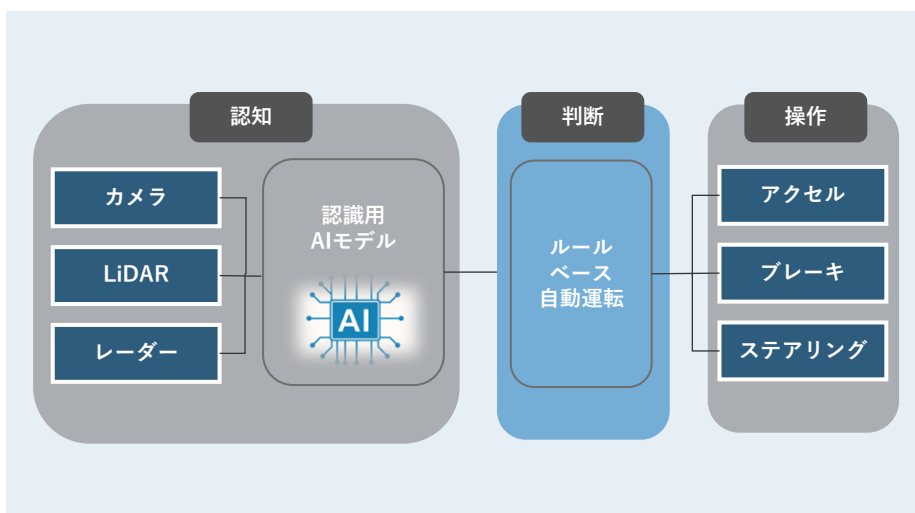
出所：国土交通省資料等より当社作成（※1）運転操作の主体：車両の操縦のために必要な、認知、予測、判断及び操作の行為を行うこと（※2）特定条件：システムが自動運転を行うために必要な特定の環境や状況を指し、場所、天候、速度等が含まれます。「特定条件」として、特定の地理的範囲や道路環境が設定される場合には、これを「限定領域」と呼びます。例えば、高速道路のみ、特定の都市部内でのみ自動運転システムが作動する場合、これらの領域が「限定領域」となります。（※3）条件付き：特定の条件下でシステムが全ての運転タスクを実行することを指し、システムの作動継続が困難な場合には、運転者が適切に対応する必要があるというものです。（※4）例：走行中にスマートフォン操作が可能。

# AI技術の進展によるE2E AIシステム

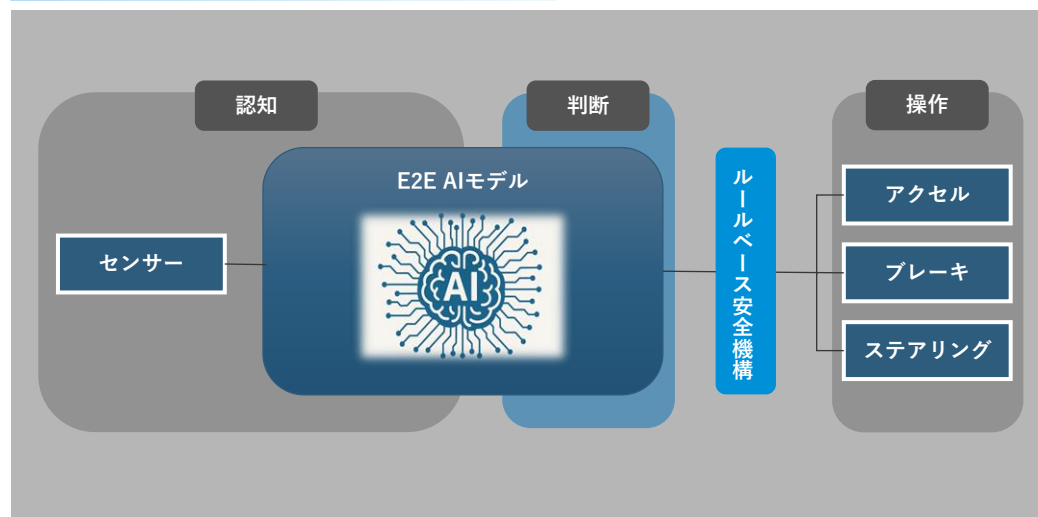
ODDの拡大を牽引する要素として、AIによる車両制御技術の急速な発展も挙げられる

特にEnd-to-End AI(E2E AI)と呼ばれる技術は従来の車両制御技術の弱みを克服できる可能性がありテスラや中国自動車メーカーなどが開発を進めるが、課題も山積であり、拙速な市場投入には懸念も指摘される

## 従来システム



## E2E AIシステム



### 従来技術による制御

強み

- 各タスクに分解した安全性検証がしやすい
- 高精度地図カバレッジ拡大に合わせたODD拡大が可能

弱み

- あらゆる運転シーンのルール設定が現実的ではない
- 高精度地図の整備、更新が必要

### End-to-End AIによる制御

- 高精度地図のカバレッジ拡大に依存しないODD拡大が可能

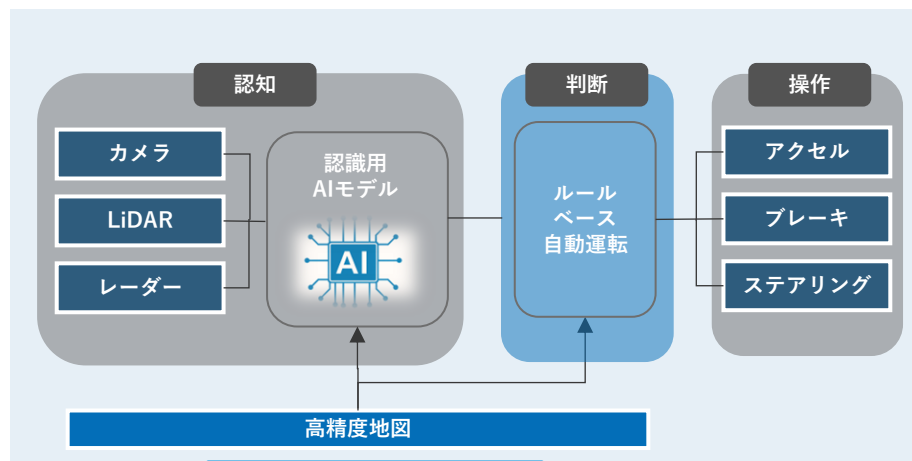
- 安全性の検証が困難（ブラックボックス）
- AIモデルの確立に膨大かつ良質なデータでの学習が不可欠
- AI処理のための学習・推論リソースが必要

# AI技術の進展によるE2E AIシステム – モジュラーE2E AIシステム

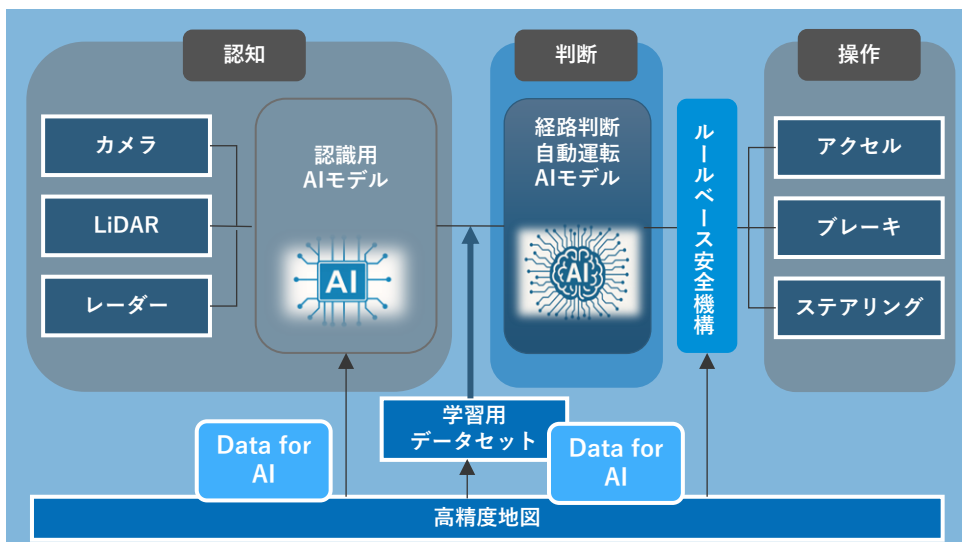
E2E AIによる自動運転技術において、複数のバリエーションがあり段階的に進展している

全てをAIで処理する「モノリシックE2E AIシステム」はその処理負荷や安全性検証の難しさ、大量のリソース確保の困難さから、「モジュラーE2E AIシステム」戦略（機能分割）を取る自動運転プレイヤーも存在する

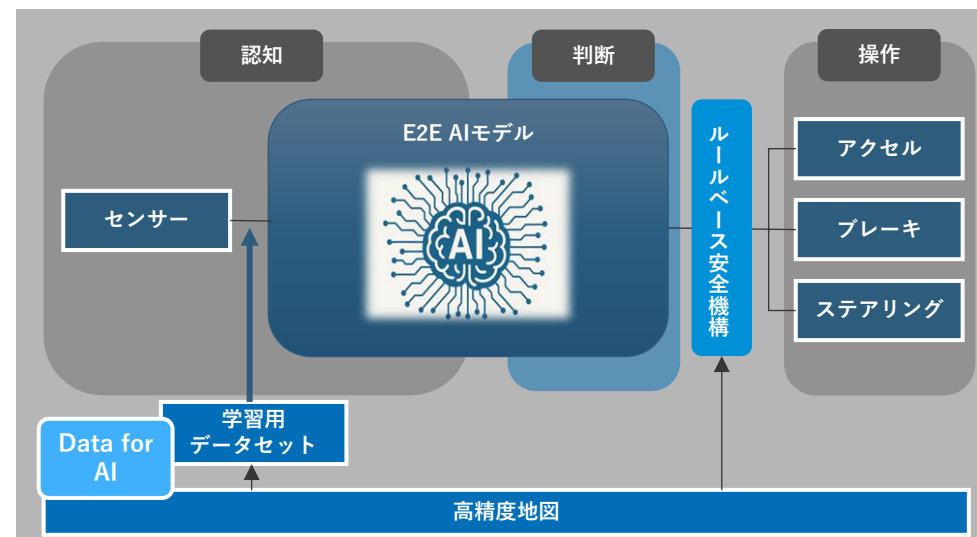
## 従来システム



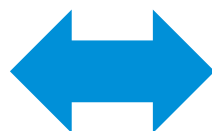
## モジュラー E2E AIシステム



## モノリシックE2E AIシステム



AIモデルや  
搭載ルールは  
地域毎



## 自動運転システムと高精度地図データのバリュー

当社は大量の高精度な素材データから高精度位置情報を提供しているプラットフォームとして、いずれの自動運転システム・技術にも、高精度地図データのバリューを提供可能。顧客要望や技術トレンドに合わせて、広範なビジネス機会に対応する

当社は車載用量産ライセンスに加えて、AI用途での法人ライセンス案件（Data for AI）としてデータ需要を捕捉

高精度地図データのバリュー	自動運転システム・技術		
	従来システム	モジュラー E2E AIシステム	モノリシック E2E AIシステム
● 自己位置推定などの運転制御に不可欠な情報	○	○	
● 自動運転システムのODDの設定	○	○	
● AIモデルの学習用素材		○	○
● システム検証における真値(グラウンドトゥルース)		○	○
● ルールベース安全機構の要素 (ODD設定など)		○	○

Data for AI

05

# ビジネスモデル



# 全体像（プロジェクトとライセンスの2本柱）

プロジェクト型ビジネス：一定の粗利率を前提に受注

ライセンス型ビジネス：整備済みデータ等を活用したビジネスであり、高い収益性を期待できる

## プロジェクト型

### 事業基盤構築

- 一定の粗利率を前提に案件を選別して受注
- R&Dとしての役割、自己投資を減らしながら事業基盤を構築
- 売上原価は主にプロジェクト受注に伴う変動費

### A オートモーティブビジネス

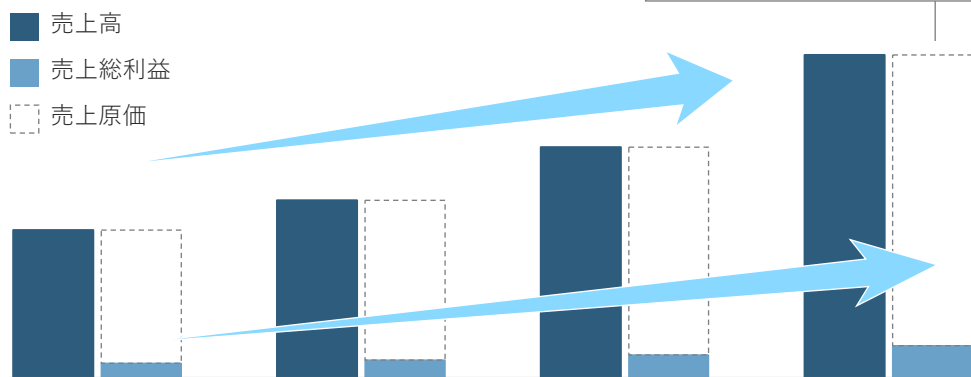
高精度3次元地図データ  
カバレッジ拡大及び更新

### B 3Dデータビジネス

官公庁・民間企業の研究開発案件

### 売上総利益増加イメージ (1)

プロジェクトごとの変動費



## ライセンス型

### 高い収益性を狙う

- 整備済みのアセット（データ・システム）を活用
- 単価×数量で算定される量産ライセンス売上と法人データライセンス売上で構成
- 売上原価は固定的であり、限界利益率が高い

### C オートモーティブビジネス

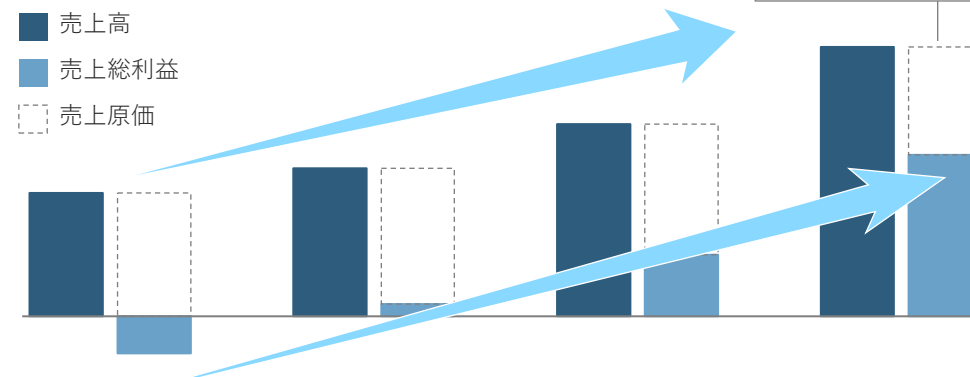
量産車への高精度3次元地図データ  
提供（量産ライセンス）  
法人データライセンス

### D 3Dデータビジネス

多用途展開可能な  
プラットフォーム構築  
法人データライセンス

### 売上総利益増加イメージ (1)

固定的費用



注：(1) 売上総利益増加イメージ通りの成長を保証するものではありません

# 全体像（売上カテゴリー別商品・ビジネスの概要）

プロジェクト型案件への取組等を通じて高精度3次元データなど事業基盤を整備し、保有するデータアセットの活用によりライセンス型売上で高収益・高成長を目指すビジネスモデル。プロジェクト型で整備される高精度3次元地図データの所有権は当社グループに帰属する

売上カテゴリー		ビジネス・取引の内容	顧客	収益モデル (主な価格決定方法/コスト構造)	現在の売上規模 (主な地域)	成長フェーズ (現在→長期)
ライセンス型	オート モーティブ ビジネス	法人 ライセンス	自動車メーカー 半導体メーカー 自動運転システム開発 会社 等	単価×距離/交渉 高精度3次元地図データ 更新費用	中規模 (国内・海外)	成長段階 高収益・高成長
		量産 ライセンス	自動車メーカー <sup>(3)</sup>	ライセンス単価×新規台数 メンテナンス単価×台数 (新規+継続) 高精度3次元地図データ 更新費用		
	3D データ ビジネス	データ ライセンス	自治体、インフラ会社 損害保険会社 シミュレータ会社 システム開発会社 等	単価×距離・台数 単価×アカウント数・ データ閲覧数 データ更新費用 システム運用費用	小規模 (国内・海外)	事業化段階 高収益・高成長
プロジェクト型	3Dデータ ビジネス	政府・民間 プロジェクト等	政府・自治体・企業	コストプラス法 業務履行に掛かる費用	中規模 (国内・海外)	安定収益確保 事業基盤構築・整備 のため、一定規模を 継続的に取り組み
	オート モーティブ ビジネス	高精度3次元 地図データ整備 <sup>(2)</sup>	自動車メーカー	コストプラス法 計測・図化費用		

注：(1) 成長フェーズに記載の長期の姿は、達成を保证するものではありません、(2) 「プロジェクト型」「オートモーティブビジネス」「高精度3次元地図データ整備」で整備される高精度3次元地図データの所有権は当社グループに帰属します。高精度3次元地図データ整備を受注する自動車メーカーからは「量産ライセンス」（高精度3次元地図データ搭載車両の販売・利用期間に応じたライセンスフィー、メンテナンスフィーは受領していません）、(3) 地図メーカー、車載システムメーカー経由で自動車メーカーに提供されるものもあります

## レバレッジの効いたPL構造

ライセンス型ビジネスの売上原価と全社販管費は固定的。安定した収益率が期待できるプロジェクト型ビジネスの粗利に加えて、既存アセットを用いたライセンス型ビジネスの売上高を積み上げることで高収益性を志向

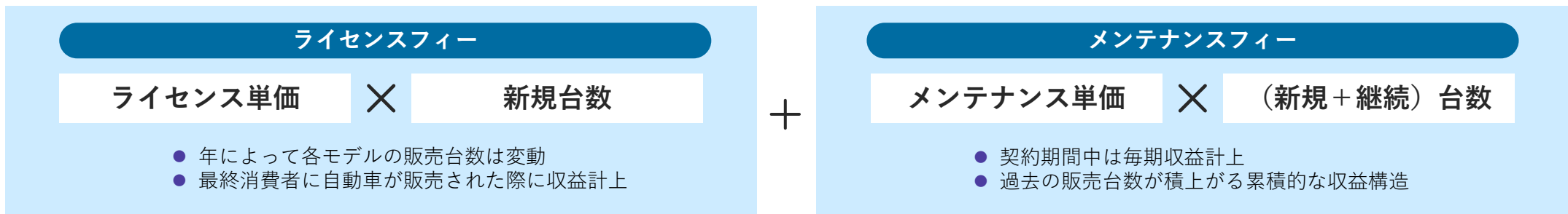


注：(1) FY25の実績値。なお、為替レートは149.71円/ドルで計算

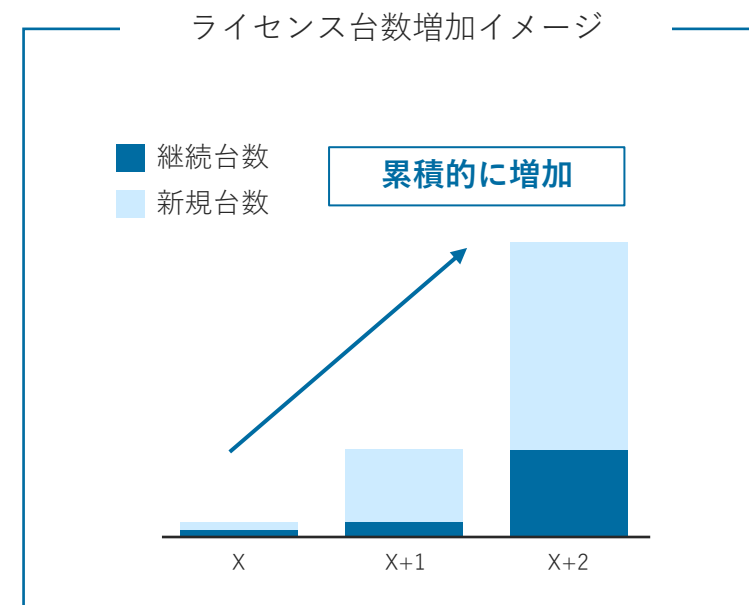
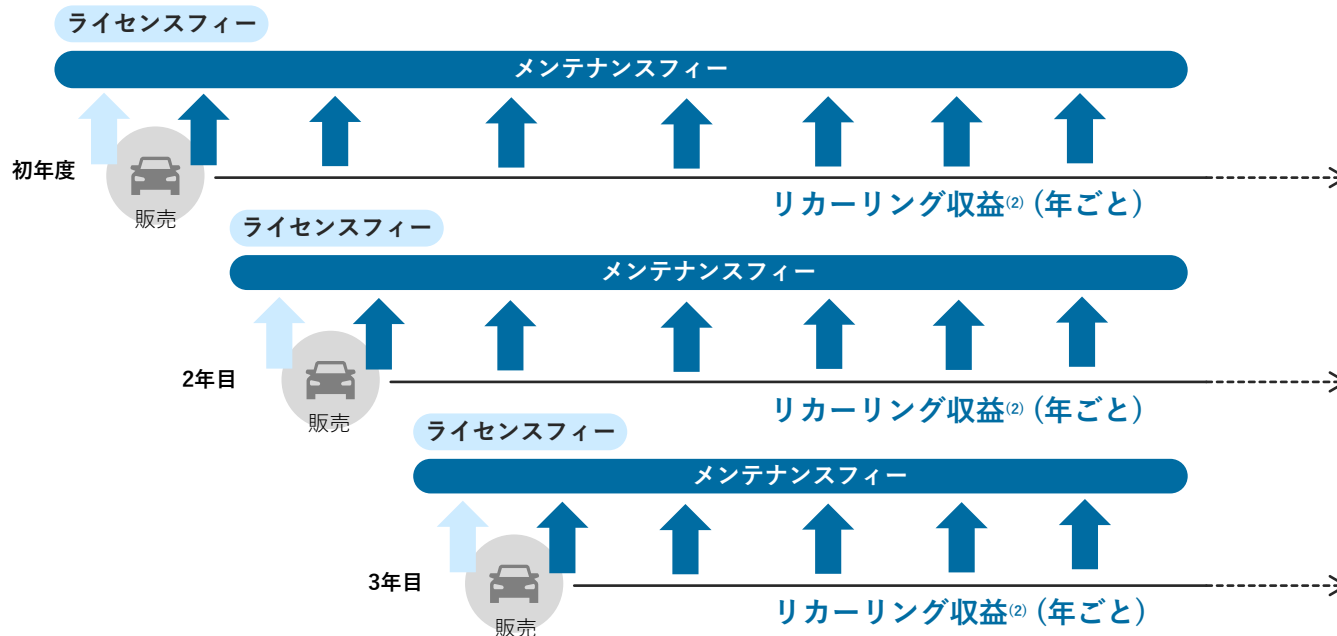
# ライセンス型ビジネス（オートモーティブ）の収益モデル－量産ライセンス

車両への高精度3次元地図データ導入数に応じて売上が増加する性質。導入時一括収益計上のライセンスフィーと契約期間に渡って毎期収益計上されるメンテナンスフィーで構成される累積的な収益モデル

## 量産ライセンス売上の構成要素



## 量産ライセンス売上イメージ



注：(1) 記載の収益モデルはあくまでイメージであり、実際にこの図のとおりとならない可能性もある (2) 企業が定期的に得る収益のことを指します

# ライセンス型ビジネス（オートモーティブ）の収益モデル－法人ライセンス

法人向けに固定価格で高精度3次元地図データライセンスを提供

車載用量産ライセンスに加えて、AI用途での法人ライセンス案件（Data for AI）としてデータ需要を捕捉

 開発向けAI用途法人ライセンス

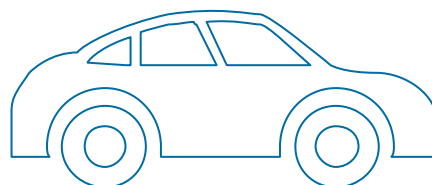


Data for AI

各社に対して固定価格での高精度3次元地図データライセンス提供

顧客	自動車メーカーグループ	大手半導体メーカー	自動運転システム開発会社
用途	自動運転・ADAS <sup>(1)</sup> 開発 (車両システムレベル)	自動運転向けAIプラットフォーム開発 (学習・推論・アクセラレーション)	自動運転ソフトウェア開発 (アルゴリズム/スタック)
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーションを用いた自動運転・ADAS機能の検証</li> <li>高精度3次元地図データを正解データ（グラウンドトゥールズ）としたAIの学習</li> <li>推論・多様な道路条件下における車両挙動の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIの学習・推論用入力データとしての高精度道路データ提供</li> <li>自動運転向けAIプロセッサ/プラットフォームの性能評価・最適化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動運転アルゴリズム向け大規模AI学習・推論</li> <li>実在道路に基づくシナリオ型シミュレーションおよびODD検証</li> </ul>

シミュレーション・学習・検証の全工程で利用可能



自動運転・ADAS車両

注：(1) 先進運転支援システム。Advanced driver-assistance systemの略

# ライセンス型ビジネス（オートモーティブ）

搭載車種増加に加え、自動運転・ADASへのAI利用が進行する流れにおいて当社データへの需要を見込む

大手自動車メーカーグループ、自動運転システム開発会社、海外大手半導体メーカー等からの法人ライセンス需要を捕捉。販売実績のある顧客への追加販売（用途・地域の拡大等）も含めて、法人ライセンスの引き合い・商談増加

## 主なパイプライン<sup>(1) (2) (3)</sup>

量産ライセンス

法人ライセンス

契約済み

RFQ<sup>(4)</sup>

RFI<sup>(5)</sup>

商談中<sup>(6)</sup>

更新箇所

契約形態		顧客	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29	
量産 ライ セン ス	単価×数量 (台数)	自動車メーカー A	1.6億円	3.0億円	7.1億円	21.3億円				
		自動車メーカー B	4.9億円	5.0億円	5.0億円	59.9億円				
		自動車メーカー C								
	単価：固定	自動車メーカー D								
		自動車メーカー E								
	数量： 顧客ヒアリングに 基づく見積もり	自動車メーカー F								
		自動車メーカー G			1.1億円	20.5億円				
		自動車メーカー H/I/J								
		自動車メーカー K/L/M								
		自動車メーカー K/L/M								
法 人 ラ イ セン ス	固定金額での 契約	海外大手地図メーカー								
		海外大手半導体メーカー								
		海外大手半導体メーカー								
		大手自動車メーカーグループ								
		大手自動車メーカーグループ								
		大手車載システムメーカー								
		自動運転システム開発会社								
		自動運転システム開発会社								
		自動運転システム開発会社								
		自動運転システム開発会社								

注：(1) これらのパイプラインに記載の金額はあくまで契約に基づく単価と顧客ヒアリングに基づく販売台数見積りにより想定される収益見込み金額であり、実際の販売台数が見積りを下回った場合には、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 為替レートはFY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25は149.71円/ドル、FY26以降は145円/ドルで計算。(3) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(4) Request For Quotation: P42の注参照。(5) Request For Information: P42の注参照。(6) 商談中: P40の注参照。

## ライセンス型ビジネス（3Dデータ）

グローバル180万Kmの広範な整備済み保有データと蓄積技術をベースに営業活動に注力。販売パートナーを通じたデータ拡販に取り組み。国内における除雪、事故調査、道路管理用途では継続的な利用を見込む

不動産開発用途でのデータ利用需要を開拓。物流・空港・港湾等狭域・特定エリア向けのデータ連携システムの商品化が進展。実装によるライセンス型売上を見込む。海外州政府向け案件の受注活動継続

### 主なパイプライン<sup>(1)</sup>

Guidance商品

Viewer商品

データ連携システム

法人データライセンス

契約済み

商談中<sup>(2)</sup>

更新箇所

顧客	事業内容	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
地方自治体	除雪	→	→	→	→	→	→	→
大手損害保険会社 事故調査会社	事故調査	→	→	→	→	→	→	→
大手不動産会社	不動産開発							
物流事業者・空港・港湾	データ連携システム							
大手道路管理会社	インフラ管理	→	→	→	→	→	→	→
海外州政府	V2X		→					
海外州政府	インフラ管理							
海外ソフトウェア会社	シミュレーター、産業用							

### 販売パートナーを通じたデータ拡販に向けた取り組み

#### 海外ソフトウェア会社との提携

- 2025年8月より、ドイツのシミュレーションソフトウェア企業PTV Groupが新たにリリースしたプラットフォーム（Model2Go for PTV Vissim）を通じて、**交通シミュレーション領域で当社の高精度3次元データをグローバルに提供開始**
- 2025年12月に、フランスのゲーム開発会社APEX Studio向けに自動運転にも使用される当社の高精度3次元データを提供（右図）。これにより、**現実世界に限りなく近い、没入感あふれるドライブ体験を世界中のゲームユーザーに提供**



# プロジェクト型ビジネス（3Dデータ）

日本政府との強い関係性に裏付けされた、3Dデータビジネスにおける複数の国家プロジェクト受託実績  
民間主導の自動化投資拡大の動きを受けて民間企業との案件増加

## 主なパイプライン（2023年以降売上計上分）<sup>(1)</sup>

契約済み

商談中<sup>(2)</sup>

更新箇所

契約形態	顧客	プロジェクト	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
固定金額での契約 合計金額：固定	NEDO	グリーンイノベーション基金	6.8億円	3.2億円					
	デジタル庁	モビリティ分野における産業用データ連携基盤整備	2.7億円						
	NEDO	デジタルライフライン		14.6億円					
	経産省	Bridge公共エリア向けダイナミックマップ	1.0億円	2.1億円	2.1億円				
	経産省	高精度3次元地図データに関する国際標準化	1.3億円						
	総務省	V2N 通信実証							
	国土交通省	海外スマートシティ支援							
	国土交通省	空港・港湾自動化							
	官公庁	防災・防衛関連（技術研究）							
	政府機関	農業自動化（実証）							
	政府基金/ 民間企業	宇宙ビジネス関連プロジェクト							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
民間企業	物流自動化に向けた取組								

国の政策・方針に沿った取り組み  
社会実装に向けて  
関係省庁、民間企業と連携

注：(1) これらのパイプラインはあくまで契約に基づいて想定される収益見込み金額であり、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 商談中：P40の注参照。

# プロジェクト型ビジネス（オートモーティブ）

安定した収益を確保し自己負担を軽減しながら、事業基盤であるHDマップカバレッジを拡大  
新たな国・地域での新規整備を進める。整備済みの国・地域での更新整備も継続的に受注

## 主なパイプライン（2023年以降売上計上分） (1) (2) (3)

契約済み

RFQ<sup>(4)</sup>RFI<sup>(5)</sup>商談中<sup>(6)</sup>

更新箇所

契約形態	顧客	プロジェクト	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
契約で定める 固定金額での受注  複数年度に渡る 合計金額：固定  各年度への配分：売上 実績及び当社見積り	自動車メーカー	新規整備	7.2億円						
		新規整備	6.7億円	18.0億円	7.3億円				
		新規整備	0.6億円	0.03億円	4.0億円	5.1億円	案件規模拡大		
		新規整備	2.2億円	0.9億円					
		新規整備	3.4億円						
		新規整備					8.7億円		
		新規整備							
		新規整備							
		更新整備	10.2億円	13.2億円	13.0億円	12.8億円			継続的に受注

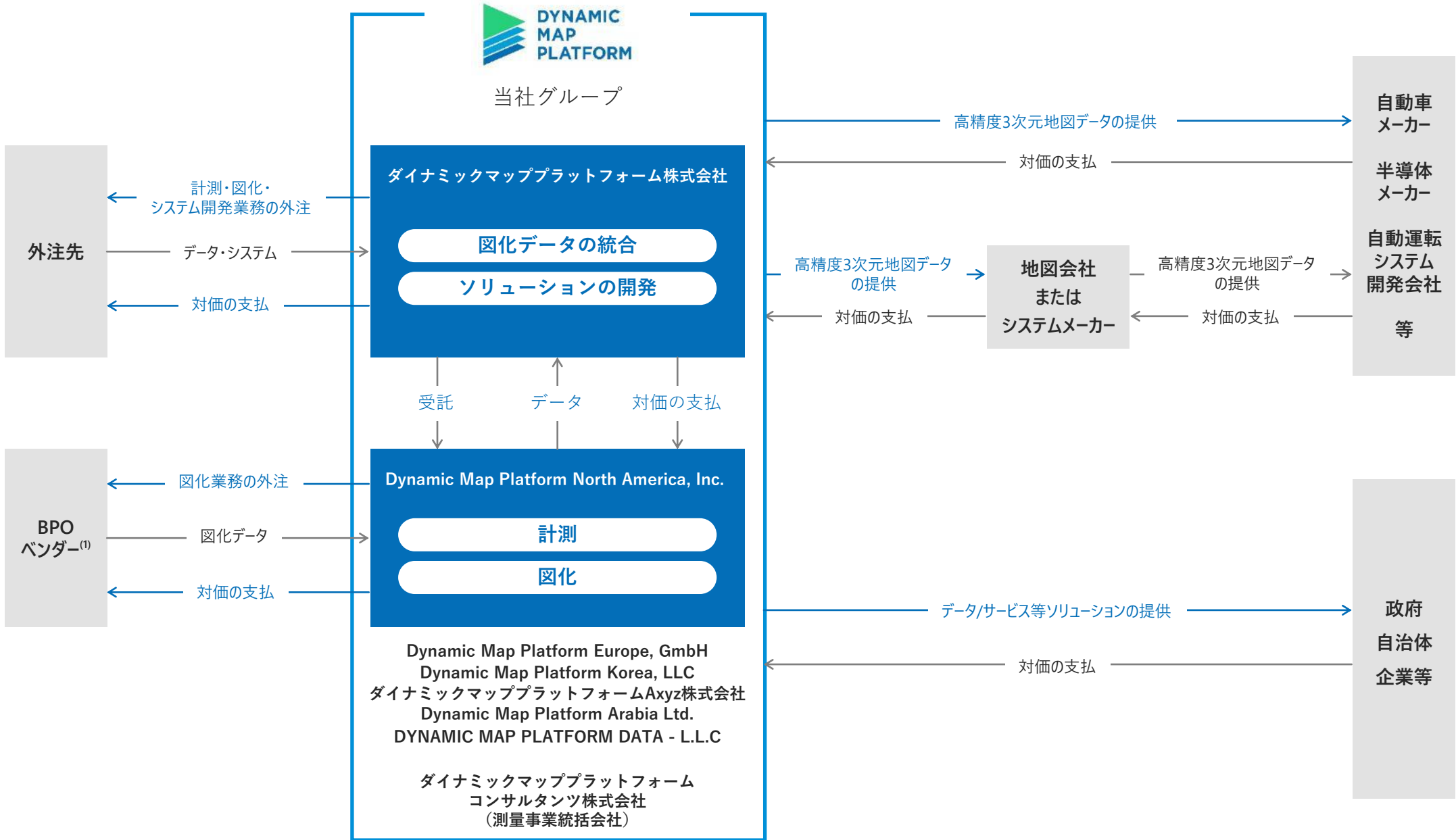
## 代表的な案件

### 自動車メーカーを顧客としたHDマップ整備

- 米国、欧州等の主要道路をHDマップとして整備し、カバレッジ距離に応じた収益を獲得
- 既存地域での追加整備に加えて、新規地域で継続した取引を予定
- 更新整備についても、継続して安定的な収益を獲得

注：(1) これらのパイプラインはあくまで契約に基づいて想定される収益見込み金額であり、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(3) 為替レートはFY22は131.43円/ドル、FY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25は149.71円/ドル、FY26以降は145円/ドルで計算。(4) Request For Quotation: 顧客からの見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）を受領し、その回答を行っている状況を指し、当該見積依頼書や回答自体には法的拘束力はなく当該見積依頼書や回答に基づく契約が将来締結される保証はありません。一般に、自動車業界においては数年先のサービス提供開始を見据えて開発契約や生産計画が検討されることが多く、見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）を受け取る時点においては当該パイプラインの具体性が高まっている状況にあると考えられるもの、見積依頼書に対して回答を行った取引内容や販売条件等がその後変更または失注となり、当社グループが想定する収益につながらない可能性があります。(5) Request For Information: 顧客から情報提供依頼書（RFI：Request for Information）を受領し、その回答を行っている状況を指し、当該情報提供依頼書や回答自体には法的拘束力はなく当該情報提供依頼書や回答に基づく契約が将来締結される保証はありません。すなわち、「RFI：Request for Information」の段階は、見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）受領に至る前段階であり、当該情報提供依頼書への回答で行われた取引内容や販売条件等は「RFQ：Request for Quotation」及び「契約済み」に進捗する段階においてその後変更または失注となり、当社グループが想定する収益につながらない可能性があります。(6) 商談中：P40の注参照。

# 事業系統図



注：(1) BPOとはBusiness Processing Outsourcingの略称で業務プロセスの一部を外部の専門業者に委託することを指しております。BPOベンダーとはその業務の委託先を指しております。

06

# 成長戦略



## プロジェクトとライセンスの両輪

プロジェクト型ビジネスを通じたデータ整備・技術開発による事業基盤の構築を経て、データ提供・更新フェーズへ移行し、高収益性が期待できるライセンス型ビジネスの拡大を志向

### ライセンス型ビジネス拡大の道筋

プロジェクト型ビジネス	31億円 <sup>(1)</sup>
変動費中心で一定の売上・利益を安定して獲得	
堅実な成長	
オートモーティブビジネス	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車メーカー向け高精度3次元地図データ整備案件。主要地域の新規整備が概ね完了。今後も需要に応じて整備実施</li> <li>更新整備の継続受注により安定収益を確保</li> <li>ライセンス型ビジネス拡大の基盤</li> </ul>	
堅実な成長	
3Dデータビジネス	
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本政府及び民間企業向けプロジェクト案件</li> <li>民間主導の自動化投資拡大による民間企業案件増加</li> <li>国の政策・方針に沿った取り組み。社会実装に向けて、関係省庁、民間企業と連携</li> </ul>	

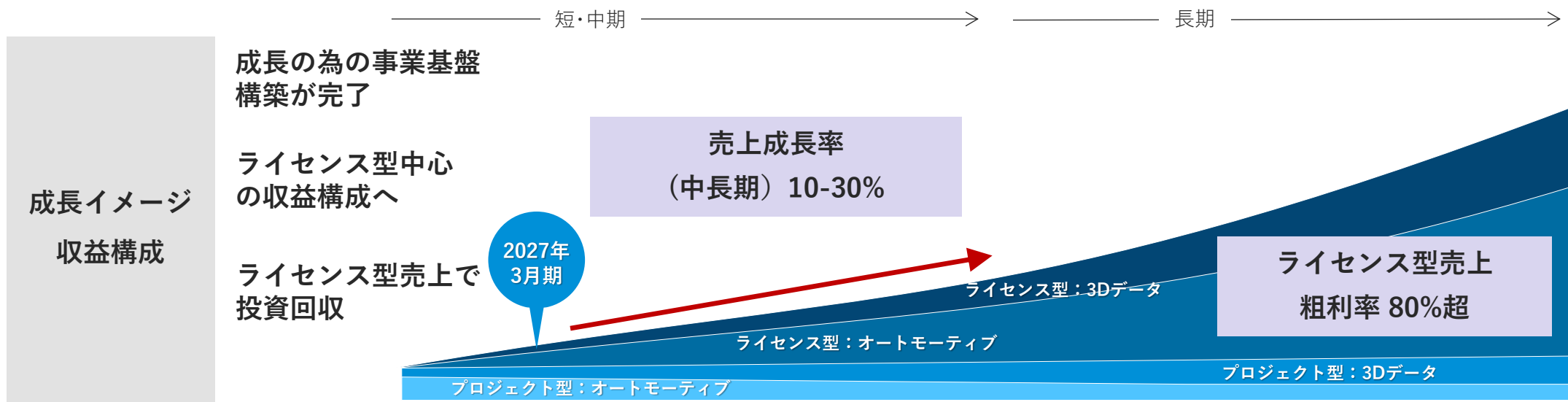
プロジェクト型で事業基盤を整備し  
ライセンス型で拡販

ライセンス型ビジネス	26億円 <sup>(1)</sup>
固定費中心で売上成長を上回る利益成長を実現	
堅実な成長	
オートモーティブビジネス	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車メーカーへの量産ライセンス。受注残およびパイプライン積み上がりにより搭載自動車メーカー数・車種数増加</li> <li>開発向けAI用途等法人ライセンス案件（Data for AI）。自動車メーカー各社、半導体メーカー、自動運転システム開発会社からの引き合い増加</li> <li>広範な整備済みデータを活かしてデータ需要を捕捉</li> </ul>	
潜在的な成長	
3Dデータビジネス	
<ul style="list-style-type: none"> <li>インフラ管理、物流、不動産、事故調査等の用途で利用拡大</li> <li>フィジカルAIの進展により「Data for AI」需要が顕在化、新たな成長ドライバーへ</li> <li>パートナー連携によりグローバルでのデータ販売を推進</li> </ul>	

注：(1) FY25の実績値。なお、為替レートは149.71円/ドルで計算

# 将来の収益イメージ

成長の為の事業基盤構築が完了。ライセンス型売上中心の収益構成へ



カテゴリー別 施策	3Dライセンス	販売パートナーを通じた拡販	海外展開・用途拡大
	車載ライセンス	新規顧客数拡大 既存顧客の搭載車種拡大	新規搭載台数+累積搭載台数増加による 成長の加速
	法人ライセンス	AI用途法人ライセンスの拡大	
	3Dプロジェクト	ライセンス商品開発を目的に案件受託	
	オートプロジェクト	データ更新継続・需要に応じて新規整備	

注：(1) 記載の収益推移はイメージであり、達成を保証するものではありません

## 目標とする中長期的なPL構造イメージ／高利益率実現

ライセンス型収益の原価と全社販管費は固定的。安定した粗利が期待できるプロジェクト型収益に加えて、累積的な拡大が期待できるライセンス型収益（オートモーティブ）と当社が保有する世界有数のデータのポテンシャルを活かしたライセンス型収益（3Dデータ）を積み上げることで高収益性を志向

		プロジェクト型	ライセンス型
PL	売上高	<b>安定的な粗利獲得期待</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>変動費中心で一定の粗利率を前提に案件受託</li> <li>オートモーティブ向けデータ更新と国家プロジェクトは中長期的な案件継続が期待可能</li> </ul>	<b>オートモーティブで堅実な収益増加期待</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ADAS普及に伴うHDマップ搭載車増によるライセンスフィー増加とメンテナンスフィー累積的增加</li> <li>AI用途等法人ライセンス売上拡大、アライアンスによる拡販</li> </ul> <b>3Dデータビジネスで収益増加ポテンシャル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>保有データの販売パートナーを通じた拡販</li> <li>フィジカルAIの進展による「Data for AI」需要を捕捉</li> </ul>
	売上原価	プロジェクトごとの変動費 (案件単位でコントロール)	固定費中心でライセンス収益獲得に伴って発生する追加費用は限定的
	粗利	ライセンス型の成長・固定費中心の売上原価により 売上高成長率を上回る利益成長率を実現可能	
	販管費	主要自動車メーカーに対する営業カバレッジは構築済、かつアライアンスを梃とした拡販により、ライセンス収益増に伴う販管費増は限定的	
	営業利益	着実な売上高成長・限定的なコスト増により、営業利益も着実に拡大	
調整項目	減価償却	新規データ整備に係る減価償却費	
	補助金	国の補助金を活用し自己資金負担を抑制しながら研究開発を推進	
	M&A 関連費用	事業基盤の強化および事業領域の拡大を目的にM&Aを継続的に活用	
調整後 EBITDA (1)	プロジェクト型を通じた安定的な収益獲得とライセンス型を通じた堅実な収益拡大に対して、 ライセンス型の売上原価／販管費は固定的であるため、高収益性を実現可能		

注：(1) 調整後EBITDAは営業利益に減価償却費、政府補助金、M&A関連費用を足して算出

## 重要な経営指標

中長期的な売上収益の成長、収益性の向上、また、事業活動を支えるキャッシュ・フローの創出が重要

2026年3月期、売上高は前年比減少したものの、重視するライセンス型売上は2.2倍成長し、調整後EBITDAは1億円改善

経営指標	概要
売上高	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パーパス「デジタル社会のインフラとして高精度位置情報基盤をグローバルに構築し、自動運転をはじめとする新しい未来を拓く」実現に向けて、中長期的な売上収益の成長を重視</li> </ul>
ライセンス型売上高	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 黒字化、一層の利益成長に向けて、整備済みのデータやシステム等を活用したライセンス型売上の成長が重要</li> <li>● ライセンス型売上に係る売上原価は固定的なものが中心であり、限界利益率が高い性質を有している</li> <li>● ライセンス型売上の成長が当社グループ全体の粗利率向上に寄与する</li> </ul>
調整後EBITDA	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調整後EBITDA = EBITDA（営業利益 + 減価償却費） + 政府補助金（営業外収益に計上される）<sup>(1)</sup> + M&amp;A関連費用</li> <li>● 事業活動を支えるキャッシュ・フロー創出が重要</li> </ul>

### 各指標の推移（単位：百万円）

経営指標	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	5,567	7,465	5,686
プロジェクト型売上高	4,572	6,293	3,092
ライセンス型売上高	994	1,171	2,594
調整後EBITDA	△2,203	△609	△501

注：(1) 研究開発プロジェクト等に対して受領するものであり、経営パフォーマンス、キャッシュフローに直接影響を与えるため調整しております

## 上場の目的、調達資金の使途

主に海外における事業成長の為の資金確保、優秀な人材確保、社会的信用・知名度向上を目的に株式上場

デジタル社会のインフラ整備に係る事業をグローバルに取り組む上で経営の透明性確保が重要

2026年3月期、上場時調達資金は北米におけるHDマップ整備、国内におけるデータ整備、研究開発等に充当

### 上場の目的

事業成長の為の資金確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ整備・更新、研究・商品開発等、継続的な投資が必要</li> <li>特に海外における事業拡大余地が大きく、調達資金は主に海外における事業成長に充当</li> </ul>
優秀な人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術的優位性を維持し、事業成長を実現するためには、技術者を中心とした優秀な人材確保が必須</li> <li>上場企業としての安定性と成長性が期待され、求職者に対して企業としての魅力向上</li> </ul>
社会的信用・知名度向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会のインフラ整備に係る事業に取り組む上で、株式上場による社会的信用・知名度向上は重要</li> <li>特に、海外における公的機関・大企業との取引、公的プロジェクトへの参画に際して効果大</li> <li>パブリックカンパニーとして透明性の高い経営を行っていることを対外的に示すことが出来る</li> </ul>

### 調達資金の使途及び充当の状況（単位：百万円）

資金使途	上場時計画				実績	
	充当額合計	2026年3月期	2027年3月期	2028年3月期	2026年3月期	
① オートモーティブ向けHDマップ整備・更新	295	176	119		10	国内HDマップ整備・更新
② 海外子会社宛投融资	3,982	1,130	1,706	1,146	-	北米子会社向け投融资
オートモーティブ向けHDマップ整備	3,064	812	1,106	1,146	1,491	北米HDマップ整備
3Dデータビジネス向けデータ整備	918	318	600		-	北米他、海外におけるデータ整備 (インフラ管理)
③ 3Dデータビジネス向けデータ整備	221	73	148		90	国内におけるデータ整備 (除雪支援システム、インフラ管理)
④ 研究開発	731	471	260		352	HDマップ生成プロセス合理化
合計	5,229	1,850	2,233	1,146	1,943	

07

# 財務情報



# 主要財務諸表

(単位: 百万円)

## 貸借対照表

	2024/3期	2025/3期	2026/3期
<b>資産</b>			
<b>流動資産合計</b>	12,824	12,562	6,611
有形固定資産	757	652	623
無形固定資産	542	2,644	3,532
投資その他の資産合計	116	117	121
<b>固定資産合計</b>	1,416	3,413	4,277
<b>資産合計</b>	<b>14,241</b>	<b>15,975</b>	<b>10,889</b>
<b>負債・純資産</b>			
<b>流動負債合計</b>	4,985	6,024	2,614
<b>固定負債合計</b>	4,400	991	1,045
<b>負債合計</b>	<b>9,386</b>	<b>7,016</b>	<b>3,659</b>
資本金	100	2,755	100
資本剰余金	10,090	9,567	11,054
利益剰余金	(5,276)	(3,642)	(4,181)
<b>株主資本合計</b>	4,914	8,680	6,972
為替換算調整勘定	(85)	253	232
<b>その他包括利益累計額合計</b>	(85)	253	232
新株予約権	19	19	19
非支配株主持分	5	5	4
<b>純資産合計</b>	<b>4,854</b>	<b>8,958</b>	<b>7,229</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>14,241</b>	<b>15,975</b>	<b>10,889</b>

## 損益計算書

	2024/3期	2025/3期	2026/3期
<b>売上高</b>	<b>5,567</b>	<b>7,465</b>	<b>5,686</b>
売上原価	5,655	6,144	4,875
<b>売上総利益 (損失)</b>	<b>(88)</b>	<b>1,320</b>	<b>810</b>
販売管理費及び一般管理費	2,466	2,540	2,687
<b>営業利益 (損失)</b>	<b>(2,554)</b>	<b>(1,219)</b>	<b>(1,876)</b>
営業外収益	331	116	333
営業外費用	266	311	108
<b>調整後EBITDA</b>	<b>(2,203)</b>	<b>(609)</b>	<b>(501)</b>
経常利益 (損失)	(2,490)	(1,414)	(1,651)
特別利益	75	-	12
特別損失	1,627	-	-
税金等調整前当期純利益 (損失)	(4,042)	(1,414)	(1,639)
法人税等合計	7	130	69
<b>当期純利益 (損失)</b>	<b>(4,050)</b>	<b>(1,544)</b>	<b>(1,708)</b>
非支配株主に帰属する当期純利益 (損失)	(1)	(0)	(0)
親会社株主に帰属する当期純利益 (損失)	(4,049)	(1,544)	(1,708)

## キャッシュ・フロー

	2024/3期	2025/3期	2026/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	(3,166)	(2,269)	(61)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(842)	(2,472)	(1,910)
財務活動によるキャッシュ・フロー	159	2,829	(2,796)

08

# リスク情報



## 事業等のリスクと対応方針①

当社事業に関する特有のリスクについて、本書提出日時点で特に重要な事項として以下のとおり認識しており、今後も対応を行ってまいります。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

(リスク情報の記載内容の見直しについて)

当社の事業進捗及び事業環境の変化を踏まえ、リスク情報の記載内容を全面的に見直しております。当社はデータ整備フェーズからライセンス提供フェーズへ移行しており、収益構造や事業領域に変化が生じていることから、これに対応したリスク認識の整理を行っております。また、AI用途（Data for AI）をはじめとする新たな事業機会の拡大や、グローバルでの事業展開の進展を踏まえ、リスク内容の見直し及び記載の充実を図っております。

リスク項目	顕在化可能性	影響度	発生時期
<b>市場環境・顧客投資の不確実性について</b>	<b>中</b>	<b>大</b>	<b>数年以内</b>
<b>リスクの内容</b>	自動車業界においては、地政学リスクや原油価格動向等の影響により事業環境の不確実性が存在し、完成車メーカーおよび部品メーカーの業績動向に応じて開発投資が慎重化する可能性があります。一方で、当社グループの事業は自動車関連領域に加え、フィジカルAIやデータ活用の進展を背景とした産業用途への展開を進めており、対象となる顧客領域は拡大しています。こうした非自動車分野においては、AI関連投資の拡大が期待される一方で、投資の立ち上がり時期や優先順位には不確実性があり、投資判断や開発計画の見直しが生じる可能性があります。これらの結果として、業界横断的に案件の実施時期の変更や規模の調整が生じ、売上計上時期の後ろ倒しや収益機会の減少につながる可能性があります。		
<b>対応方針</b>	顧客との継続的な協議を通じて用途・条件の具体化を進め、案件の実現につなげてまいります。また、自動車分野での顧客基盤を維持・拡大しつつ、産業用途への展開を進めることで、成長機会を取り込みながら事業基盤の強化を図ってまいります。		
<b>収益構造（ライセンス型中心）への転換が進展しないリスク</b>	<b>中</b>	<b>大</b>	<b>数年以内</b>
<b>リスクの内容</b>	当社グループは、プロジェクト型ビジネスを通じて整備してきたデータ基盤を活用し、ライセンス型ビジネスを中心とした収益構造への転換を進めています。しかしながら、この転換は、顧客におけるデータ活用の進展、ならびに当社が産業界において利用される形でデータおよび商品を提供できること（AIネイティブなデータ・商品開発を含む）、および顧客の獲得・利用拡大が進むことを前提としています。これらが想定どおりに進まない場合、ライセンス型売上の拡大が進まず、収益構造の転換が進展しない可能性があります。その結果、収益性の向上が想定どおりに進まない可能性があります。また、当社グループは、事業基盤の強化および事業領域の拡大を目的としてM&Aを継続的に活用していますが、当該取り組みにより期待した成果が得られない場合には、事業基盤の強化および事業領域の拡大が進まず、収益構造転換の進展に影響を及ぼす可能性があります。		
<b>対応方針</b>	AI用途を含む顧客ニーズに対応したデータ整備およびAIネイティブなデータ・商品開発を進め、顧客による利用の拡大および用途の広がりを通じて、ライセンス型売上の拡大に取り組んでまいります。また、M&Aを含む事業基盤強化の取り組みについては、各施策の目的に沿って着実に実行し、事業基盤の強化や事業領域の拡大につなげることで、収益構造転換の進展を図ってまいります。		

## 事業等のリスクと対応方針②

当社事業に関する特有のリスクについて、本書提出日時点で特に重要な事項として以下のとおり認識しており、今後も対応を行ってまいります。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

リスク項目	顕在化可能性	影響度	発生時期
<b>Data for AI市場の立ち上がり・競争環境・技術革新リスク</b>	中	大	特定時期なし
<b>リスクの内容</b>	フィジカルAIの進展や産業界におけるAI関連投資の裾野拡大により、AI用途（Data for AI）における実世界データ需要は拡大が見込まれる一方、市場の立ち上がり時期や成長スピードには不確実性が存在します。また、高精度3次元データの需要拡大に伴い、新規参入を含む競争環境の変化や技術革新により、当社グループの競争優位性が相対的に低下する可能性があります。さらに、用途や要求仕様の変化により、代替的なデータや手法が採用されることで、需要構造が変化する可能性があります。		
<b>対応方針</b>	当社グループは、フィジカルAIの需要に応えるためのAIネイティブなデータ・商品開発を継続し、顧客にとって利用しやすい形で提供できる状態を強化することで、需要を着実に取り込んでまいります。また、技術動向および競争環境の変化を継続的に把握し、データ品質や更新性等の観点で提供価値を高める取り組みを通じて、競争優位性の維持・強化を図ってまいります。		
<b>収益性改善および黒字化の実現が遅延するリスク</b>	中	大	数年以内
<b>リスクの内容</b>	当社グループは事業フェーズの転換過程にあり、収益性の向上（黒字化の実現）は重要な経営課題であると認識しています。今後は、ライセンス型ビジネス中心の収益構造への転換を通じて収益性改善を図る方針ですが、当該転換が想定どおりに進まない場合、または収益構造の変化に応じた収益水準に到達しない場合には、収益性改善および黒字化の実現時期が遅延する可能性があります。		
<b>対応方針</b>	収益構造転換の進展に向け、ライセンス型ビジネスの拡大に引き続き取り組むとともに、事業規模および事業フェーズに応じた体制の最適化およびコスト構造の改善を進め、収益性向上を図ってまいります。		
<b>人材の確保・育成に関するリスク</b>	中	中～大	特定時期なし
<b>リスクの内容</b>	当社グループが今後の事業成長を実現するためには、データ整備およびAIネイティブなデータ・商品開発等を継続的に高度化していく必要があります。それに対応した人材の確保および育成が重要であると認識しております。事業の拡大や技術高度化に伴い、必要とされる人材の要件が高度化し、質・量の両面で人材需要が増加する中で、採用・育成・定着が想定どおりに進まない場合、開発・提供体制や事業推進のスピードに影響が生じ、事業成長の制約要因となる可能性があります。		
<b>対応方針</b>	当社グループは、採用活動を継続的に強化するとともに、社内トレーニング体制の強化、専門性を高めるキャリア開発支援、並びに多様な人材が活躍できる企業文化の醸成等を推進し、人材の確保・育成・定着に努めてまいります。		

09

# Appendix



# AI搭載のインテリジェントマップがモビリティと自動走行の未来を牽引

当社グループでは、人工知能（AI）をイノベーションの中心に置き、よりスマートな高精度3次元地図データの生成を推進し、次世代のモビリティを牽引。「AI for Data」と「Data for AI」の二つの柱で、革新的な方法でAIを活用

- ・ AI for Data: AI活用によるデータ生成プロセスの自動化により、更新鮮度・品質向上で大幅な改善を実現
- ・ Data for AI: ADAS・完全自動運転を加速させるためのAIの学習・推論用、ODD設計などAIのためのデータを提供

## AI for Data

画像分類、CNN(Convolutional Neural Network/畳み込みニューラルネットワーク)、カーネル密度推定、GAN (Generative Adversarial Networks/敵対的生成ネットワーク)、教師なし学習と回帰、エキスパートシステム、自動グラフ分析、HMM (Hidden Markov Model/隠れマルコフモデル) といった高度なAI技術をシームレスに統合し、以下を実現

### 自動的な抽出と地図作成

- 地形や属性などをAIで自動抽出することで、地図データ生成を高速化

### 品質保証と検証

- AIによるデータ検証を実施し、センチメートル単位の精度と一貫した高品質を保証

### 変化の検出と管理

- 地図の変化点をAIで効率的に検出・更新し、データを常に最新状態に保持

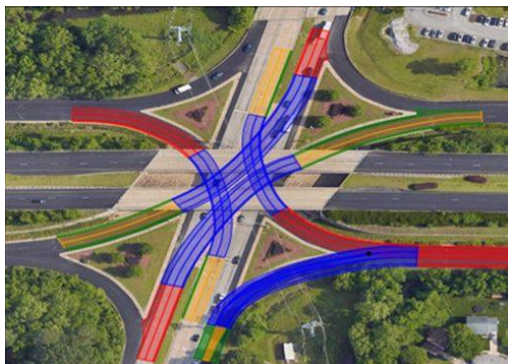
### スマート分析

- 空間データをもとに、より深く、かつ具体的な方向性をAIで導出

図1: CNNベースの交通標識検出分類器



図2: 生成型ターン操作のためのグラフネットワーク解析



## Data for AI

当社グループの高精度3次元地図データは、モビリティ分野においてAIの力を最大限に発揮させるために必要となる「空間認識能力」の理解を深めるためのツールとして貢献

### 複数パートナーとの取り組み

- AIベースで自動運転ソフトウェアを開発する有力プレイヤーをパートナーに取り組み中
- AIの学習・推論用データやODD (Operational Design Domain: 運用設計領域) 設計、シミュレーション用途に利用
  - ✓ 大手半導体メーカー
  - ✓ 大手車載システムメーカー
  - ✓ 大手自動車メーカーグループ

### 法人ライセンスとしての収益化

- 法人向けに固定価格で高精度3次元データをライセンス提供する「法人ライセンス」モデルで販売
- 自動運転ソフトウェアは自動車メーカー/モデル毎に開発が行われており、案件機会は豊富
- 2026年3月期第1四半期に大手自動車メーカーグループ向けのData for AI用データ販売売上を計上

## (取組事例) 日本マイクロソフトと連携し「AI for Data」の取り組みを加速

### 「AI for Data」の具体的な取り組みとして日本マイクロソフトと連携を発表

物体の特定・抽出や図化作業などの自動化率を向上し、データ生成プロセスの効率化を通して、コストの大幅削減を目指す。本取組成果は自動運転・先進運転支援システム向け高精度3次元地図データ、除雪支援システム等の各種ガイダンスサービスなど、既に展開しているサービスに順次導入

#### AIによる高精度3次元地図データ生成

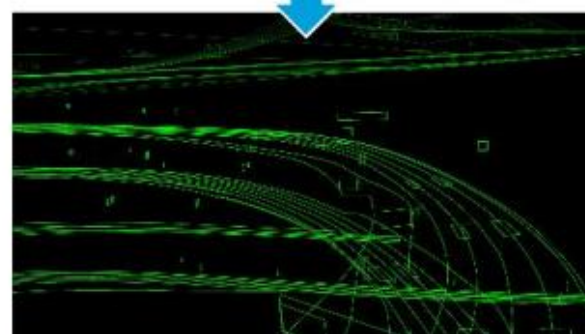
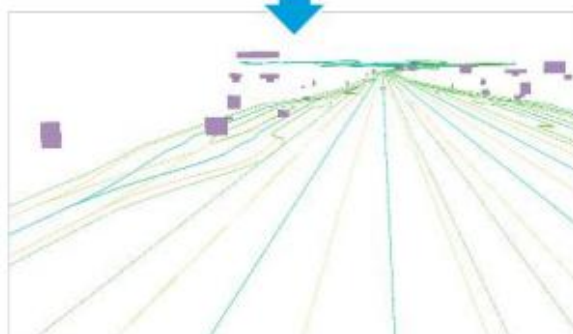
高精度3次元地図データは、車の自動運転に必要なあらゆる情報を含んでおり、高度化する自動運転や先進運転支援システム(ADAS)をはじめ、シミュレータ環境構築、インフラ管理など幅広い産業において利用可能なデータ。日本マイクロソフトと連携し、当社の高精度3次元地図データ生成における人工知能(AI)技術導入加速に向けた取り組みを開始。AI技術によるデータ整備プロセスの効率化でコストを大幅削減し、高精度3次元データの活用拡大への貢献を目指す

Input  
(点群データ)



AIによる  
物体の特定・抽出や図化

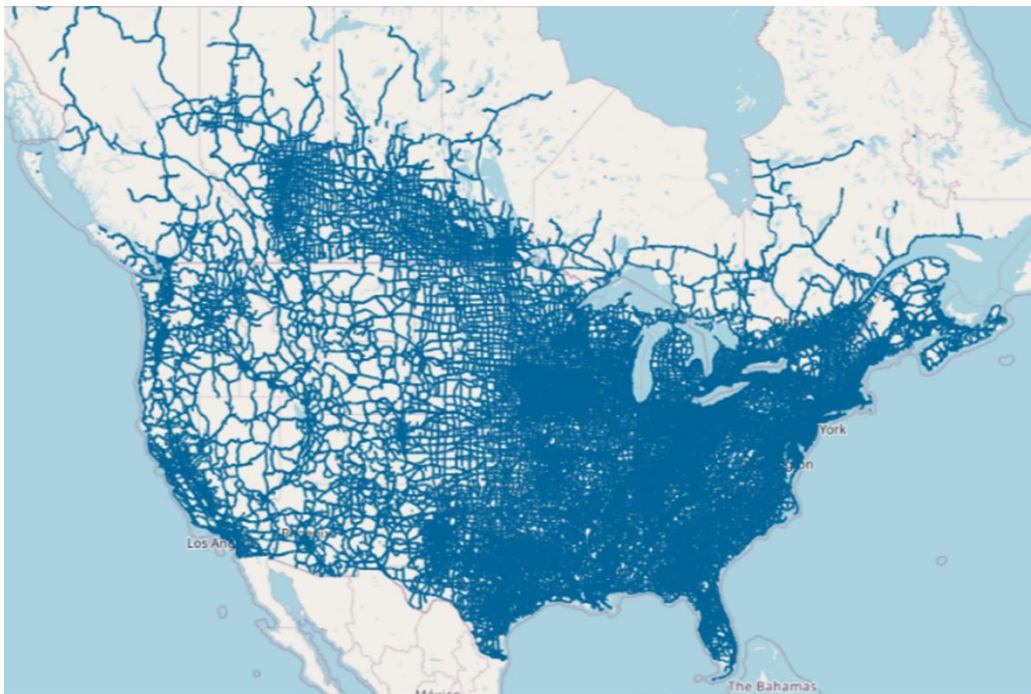
Output



## 北米における高精度3次元地図データ整備距離の拡大

米国・カナダにおいてSecondary Roadまでデータ整備が完了。約30万kmが追加され北米における当社データは約150万kmに地球をまるごとデジタル空間に複製する“Modeling the Earth”というビジョンの実現に向けデータカバレッジが進展

### 高精度3次元地図データの北米におけるカバレッジ



©2025 Dynamic Map Platform North America, Inc. All rights reserved. ©OpenStreetMap contributors.

### 技術・開発面の成果及び戦略的価値

#### 技術・開発面の成果

- 2023年以降、米国とカナダのSecondary Road（日本の都道府県道、交通量の多い市町村道に相当）について、MMSを用いて計測を実施
- 自動運転・ADASに必要な実在地物（停止線や道路標識など現実世界に存在する目視可能な要素）と仮想地物（車線中心線など現実世界に存在しない仮想の要素）をセンチメートル級の高精度で整備・収録
- 非分離道路（中央分離帯のない道路）での安全なハンズフリー運転実現に貢献

#### カバレッジ拡大の戦略的価値

- 本カバレッジ拡大により、北米にある28,000軒以上の自動車ディーラーの99%が当社データ整備済道路から1マイル（1.6km）以内に立地することとなる
- ディーラーにおける試乗やADAS機能の利用を促進し、ユーザー体験の向上に貢献



自動運転技術の発展により一層貢献し、自動車業界のイノベーションの基盤に  
また、自動車向けのみならず全米のインフラセットの維持管理にも利用可能

## 「Honda SENSING 360+」に当社の高精度3次元地図データ採用（ACCORDに搭載）

当社の高精度3次元地図データを採用した「Honda SENSING 360+」は、「ACCORD（アコード）」の最新グレード「e:HEV Honda SENSING 360+」に国内向けモデルとして初搭載

### Honda SENSING 360+

従来ACCORDに標準搭載される「Honda SENSING 360」に当社の高精度3次元地図データなどを新たに付加したものです。これにより自車の位置を正確に特定することが可能となり、全国の高速道路および自動車専用道路における安心・安全なハンズオフ走行(ドライバーがハンドルから手を離しての走行)やシステムによるレコメンド型車線変更支援機能（注）をサポートします。



ACCORD

2025.05.29

当社の高精度3次元地図データが搭載された「ACCORD e:HEV Honda SENSING 360+」

注: 追い越し時や分岐など車線変更が必要な場面において、システムが最適な行動を予測・提案し、それをドライバーが承認した際に、ウインカー操作や加減速、ステアリング操作を行い、追い越しや車線変更を支援する機能  
【関連リリース】2025年5月29日『『ACCORD』に新グレード『e:HEV Honda SENSING 360+』を設定し発売 ～Honda量販モデル初のハンズオフ機能を搭載～』 <https://global.honda/jp/news/2025/4250529-accord.html>

## 「NVIDIA Omniverse Partner Council Japan」に参画

NVIDIA社が設立したNVIDIA Omniverse Partner Council Japan に参画し、NVIDIA Omniverse上でのデジタルツイン空間構築において協業を開始

### デジタルツイン空間構築で協業



- 当社の高精度3次元データは、高度化する自動運転や先進運転支援システム(ADAS)に必要とされるセンチメートル級の高精度で整備され、日本、北米、欧州、韓国、中東などグローバルで合計180万km以上の道路をカバーしています。本データの活用により、これらの道路について**レーン数・幅・曲率・勾配などを忠実に再現したリアルな3D道路モデルをNVIDIA Omniverse上に構築し、デジタルツインデータとして利用することが可能**になります。
- また、本参画によりNVIDIA Omniverse Partner Council Japanの他パートナー企業との協業も進め、**NVIDIA Omniverseを活用したより高度なデジタルツイン空間の構築、ならびにそれを活用したお客様の課題解決支援**を推進します。



構築される3D道路モデルイメージ

## 中東地域における戦略的提携

中東における事業展開を加速する為、現地パートナー「Space 42」社との戦略的提携を実施。地域における安全な自動運転の加速を目指し、国際標準化、プラットフォーム統合、技術連携に関する協業を推進

中東、中央アジア、アフリカなどの市場における安全な自動運転の加速を目指す

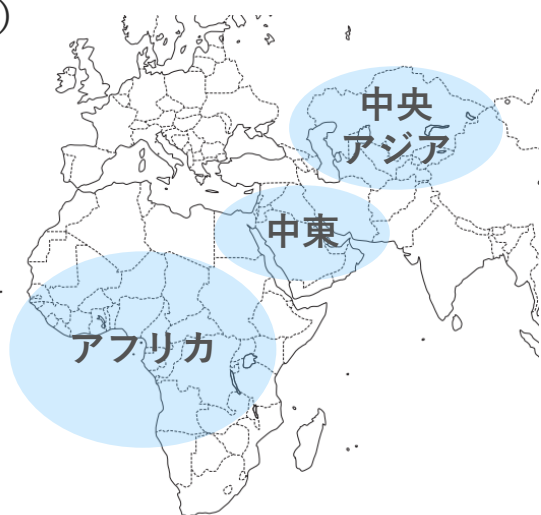
### 中東における現地パートナー



2025年9月、下記3分野における協業についてMOU締結

高精度地図およびデータプラットフォームの国際標準化  
自動運転パイロット事業  
技術・イノベーション連携

(協業対象市場)



Space42はアラブ首長国連邦(UAE)に拠点を置くAIスペーステック企業であり、衛星通信、地理空間解析、人工知能(AI)技術を統合することで、宇宙から地球を可視化する革新的なプラットフォームを提供しています。2024年に Bayanat と Yahsat の合併により設立された Space42 は、グローバルな展開力を活かし政府機関、企業、地域社会における顧客の急速に進化するニーズに対応します。Space42 は「宇宙サービス」と「スマートソリューション」の2事業部門で構成されます。宇宙サービス部門は固定衛星サービスと移動体衛星サービスの両分野における上流衛星運用を担い、スマートソリューション部門は地理空間データの取得・処理とAIを統合し、意思決定支援、状況認識の向上、運用効率の改善を実現します。主要株主には G42、ムバダラ、IHC が名を連ねています。

(アブダビ証券取引所(ADX)上場)



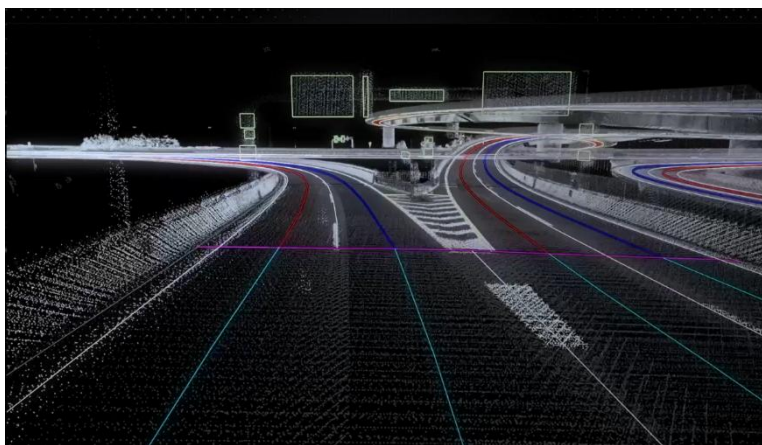
# SUBARUの最新型アイサイトに当社の高精度3次元地図データ採用

Dynamic Map Platform North America, Inc.が提供する高精度3次元地図データが、SUBARUの北米市場向け新型「アウトバック」に搭載される運転支援システム・アイサイトに採用

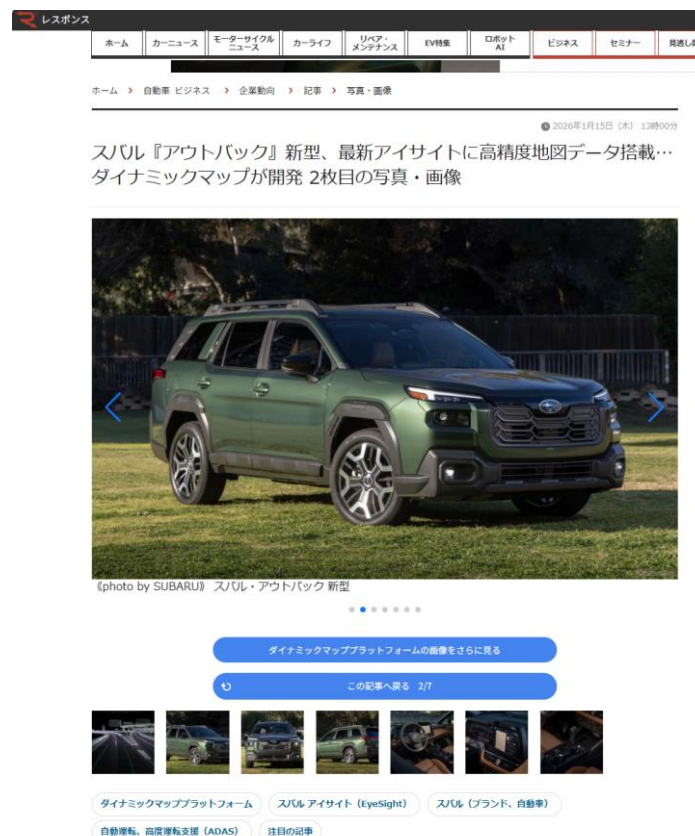
本契約によって当社は総計37車種、6つの自動車メーカーへ当社データを継続的に提供

## SUBARUの最新型アイサイト

北米市場向け新型「アウトバック」に搭載される最新型アイサイトの機能には、高速道路でのハンズオフアシスト、安全な車線選択を伴う緊急停止支援、アクティブブレーンチェンジアシスト、カーブ前での速度制御、そして渋滞時発進アシストが含まれています。



高精度3次元地図データイメージ



The screenshot shows the Subaru website's 'レスポンス' (Response) section. The navigation menu includes: ホーム (Home), カーニュース (Car News), モーターサイクルニュース (Motorcycle News), カーライフ (Car Life), リバース・メンテナンス (Reverse Maintenance), EV特集 (EV Special), ロボットAI (Robot AI), ビジネス (Business), セミナー (Seminar), and 掲載し配信 (Publish and Distribute). The breadcrumb trail is: ホーム > 自動車 ビジネス > 企業動向 > 記事 > 写真・画像. The article title is: スバル『アウトバック』新型、最新アイサイトに高精度地図データ搭載…ダイナミックマップが開発 2枚目の写真・画像. The article features a photo of a green Subaru Outback SUV. Below the photo are navigation buttons: 'ダイナミックマッププラットフォームの画像をさらに見る' (View more images of the Dynamic Map Platform) and 'この記事へ戻る 2/7' (Return to this article 2/7). A gallery of images is shown below, with the first image selected. The gallery includes: 'ダイナミックマッププラットフォーム', 'スバル アイサイト (EyeSight)', 'スバル (フロント、自動車)', '自動運転、高度運転支援 (ADAS)', and '注目の記事' (Featured Articles).

自動車総合サイト「レスポンス」によるWeb記事

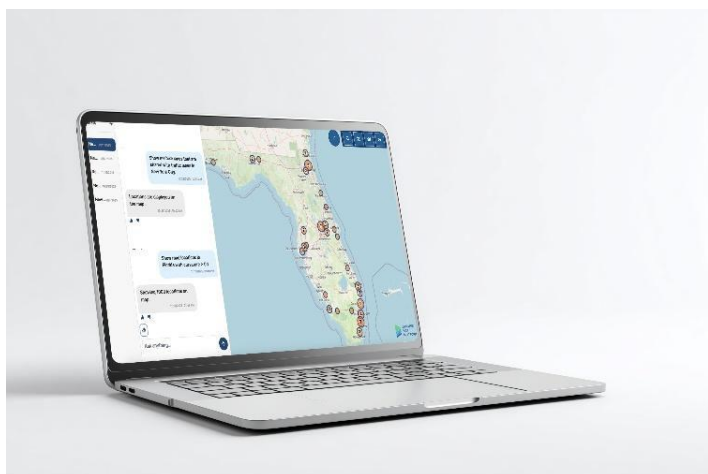
## 実世界の地図データを自然言語で解析できる AI プラットフォームの開発

実世界の地図データを自然言語で解析できる AI プラットフォームの開発に取り組み。自動運転/ADAS の開発や都市設計、インフラ管理など幅広い用途でのData解析にAIを活用。「CES2026」当社ブースにて展示

### 実世界の地図データを自然言語で解析できる AI プラットフォーム

本プラットフォームでは生成 AI を活用し、ユーザーが自然言語でプロンプト(指示文)を入力することで、当社の保有する高精度 3次元データから様々な洞察を得ることが可能です。例えば、「全米において片側3車線以上の道路はいくつある?」「そのうち危険な交差点の数は?」と入力すると、数量のみならず該当する箇所を 2D 地図および当社の高精度 3次元データで確認することができます。これは世界最大級のデータアセットを有する当社ならではのサービスであり、自動運転/ADAS の開発や都市設計、インフラ管理など幅広い用途での活用が可能です。

当社はこれまで、「AI for Data」の取り組みとして Data 生産過程の効率化目的で AI を活用してきましたが、今後は本プラットフォームを通じて Data 解析にも AI を活用してまいります。



AIプラットフォームのイメージ

### 「CES2026」に出展

当社出展内容:

- ✓ 実世界の地図データを自然言語で解析できるAIプラットフォーム
- ✓ 自動運転/ADASの信頼性を高める「高精度3次元地図データ」
- ✓ 「高精度3次元点群データ」によるリアルかつスピーディな交通シミュレーションモデル構築



当社ブースには、自動車業界、その他関連業界、政府機関等の幅広い企業・組織のマネジメント層が来訪され、具体的な商談機会が創出されました。

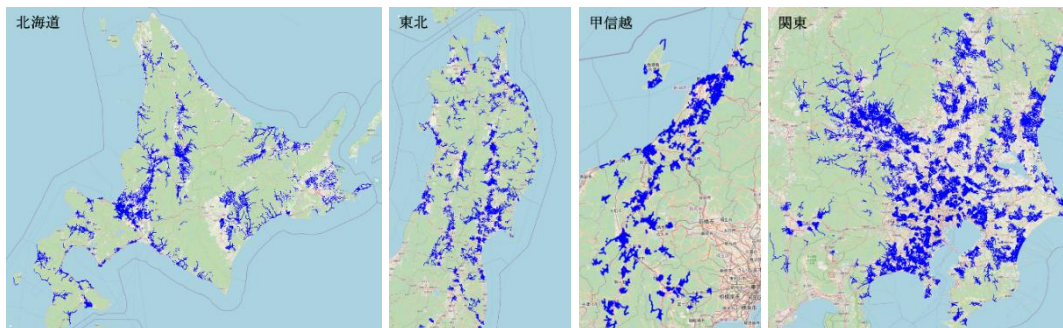
- 主要自動車メーカー・サプライヤー、ADAS向け半導体メーカー
- 米国連邦・州政府（運輸、国防関連）
- ITプラットフォーム企業
- 地理情報システムソフトウェア企業
- 産業ロボティクス関連企業
- 航空・衛星関連企業

## NTT-MEとの連携により「3Dmapspocket®」において一般道を含むより広いカバレッジを提供

NTT-MEと連携開始。同社が自社の設備点検で取得する点群データを当社の提供する3次元点群ビューアー「3Dmapspocket®」において閲覧可能に。一般道を含むより広いカバレッジを提供し、地域課題の解決に貢献  
既存ユーザーの活用範囲の拡大や、新たな業界への展開などを促進し、市場における点群データ活用拡大を目指す

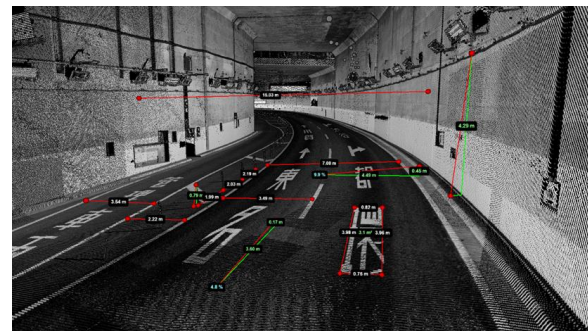
### 「3Dmapspocket®」におけるデータ提供カバレッジの拡大

これまでの「3Dmapspocket®」ではダイナミックマッププラットフォームが取得した点群データのみ閲覧可能でしたが、今般の連携により NTT-ME が自社の設備点検で取得する点群データも共有し、一般道を含むより広いカバレッジの点群データが活用可能となります。



### 点群データ閲覧サービス「3Dmapspocket®」について

3次元点群データを閲覧・分析可能なサブスクリプションサービスです。「モバイルマッピングシステム※」により、全国の高速道路/自動車専用道路と主要幹線道路を計測し、その膨大な計測データをひとつに結び合わせた形でデータを提供しています。道路交通上の課題解決をはじめ多彩な用途に使用でき、省人化や効率化の実現、安心・安全な環境づくりに貢献する高精度位置情報プラットフォームとして、様々な用途での利用が期待されています。  
サービス詳細: <https://www.dynamic-maps.co.jp/service/viewer/>



ダイナミックマッププラットフォームは「Modeling the Earth」をビジョンに掲げ、現実の世界をデジタル空間に複製し、様々な産業分野におけるイノベーションを共創しています。他方NTT-MEは、自社のアセットを活用して持続可能な地域循環型社会の共創を目指しています。本連携は各社の目指すものが合致したことで実現したものであり、地域課題の解決に資する取り組みを推進します。  
なお、今後はデータ共有にとどまらず、各社の技術と専門知識を融合したさらなるソリューションの開発を模索してまいります。

ダイナミックマッププラットフォームとNTT-MEは、各社の知見を集結してデジタルイノベーションの創出に取り組み、様々な産業におけるDXを推進してまいります。

## ゲームに高精度3次元データを提供 -リアルなドライブ体験を世界へ-

フランスのインディーゲームスタジオ「Apex Studio」が開発するオープンワールドドライブゲーム「Apex Point」に当社の高精度3次元データを提供

現実世界の道路を忠実に再現した没入感あふれるドライブ体験を、ゲームを通じて世界中のユーザーに提供

### 「Apex Point」への高精度3次元データ提供

「Apex Point」は、日本の実在する都市や高速道路、峠道などを舞台に自動車の整備やレース、ドライブ、配達業務などを楽しめるオープンワールド型PCゲームです。

今回当社は、神奈川県横浜市の大黒ふ頭エリアを中心とした道路の高精度3次元データを本作品に提供します。自動運転にも使用される当社の高精度3次元データには、実世界の道路情報が高精度に収録されています。データはミリメートル単位の精度で本作品に実装され、地形や高低差を正確に再現したオープンワールド環境を実現します。これにより、現実世界に限りなく近い、没入感あふれるドライブ体験を世界中のユーザーに提供します。

プロモーション動画はこちら:

ショートバージョン (約1分)

<https://youtu.be/2uYG1-gH2HM>



ロングバージョン (約2分)

<https://youtu.be/JuZhmxfgrBM>



<高精度3次元データを使用した「Apex Point」画面イメージ>



## 法人ライセンスが拡大中（Data for AI）

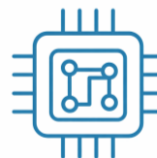
車載ライセンスに加えて、法人単位で、大手自動車メーカーグループ・海外大手半導体メーカー・自動運転システム会社向けに「法人ライセンス」が拡大

### 顧客ニーズ

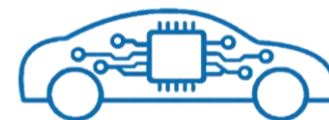
大手自動車メーカーグループ



海外大手半導体メーカー



自動運転システム開発会社



学習 : AIを活用した自動運転/ADAS開発

検証・認証 : 安全性確保や法規制・認証への対応

推論・判断 : AIが現実世界を理解・判断するためのデータ

### 当社の提供価値

グローバルで整備済の高精度3次元データを即時利用可能なデータとして提供  
産業用途で期待される高い水準の精度と忠実度で現実世界を再現できるデータセットを提供

整備済データ資産を活用した高収益なライセンスビジネスの拡大

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

なお、今後の当資料の更新は、每期本決算発表後の5月を目途に実施する予定です。